

2017年3月卒業予定者の

就職活動に関する 学生調査

2017年
1月15日状況

内定獲得率 **93.7%**

入社予定企業への満足度 **81.4%**

社会人になることが「楽しみ」な
学生は **60.8%**



アイデム 人と仕事研究所

WEBサイトでは、採用活動の
ヒントとなる情報を発信して
います

<https://apj.aidem.co.jp/>

人と仕事

 「就職活動に関する学生調査」
「新卒採用に関する企業調査」
学生と企業の「今」がわかります

株式会社アイデム
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10
アイデム本社ビル

お問い合わせ
▶ 広報担当 / 望月・栗木 ▶ 調査担当 / 岸川・古橋・菊地
☎ 03-5269-8780 ✉ kouhousitu@aidem.co.jp

結 果 概 要

2017 就職活動に関する学生調査
(2017年1月15日状況)

進捗状況

▶現在のステータス

【主な活動】

「面接・試験段階」	2.0%
「内定獲得／就活継続段階」	2.5%
「内定獲得／就活終了段階」	90.6%

(10月1日調査から+12.2ポイント)

【各活動ステータスに到達した学生の割合】

「内定獲得段階(内定獲得率)」	93.7%
-----------------	-------

(前年比+1.2ポイント)

▶内定獲得社数

平均2.4社 (前年比-0.1社)
内定獲得者の63.2%が“2社以上”の内定を獲得

▶内定辞退

「内定承諾書等の書類提出後」の辞退	15.0%
「内定式出席後」の辞退	5.9%

内定獲得社数の多い学生の方が、辞退が多い傾向

就職活動の振り返り

▶就職活動の印象

「楽だった(どちらかと言えば含む)」	42.9%
「大変だった(どちらかと言えば含む)」	57.1%

入社予定企業の従業員規模が小さいほど、また、就職活動に関する費用負担が大きいほど、「大変だった」と感じる傾向

▶一番テンションが低かった時期

1位「面接・試験時期」	54.4%
2位「エントリー活動時期」	23.3%

▶業界・職種

【業界】当初の志望通り	58.3%
【職種】当初の志望通り	64.4%

▶かかった費用

1位「50,000～69,999円」	19.9%
2位「70,000～99,999円」	19.6%
3位「100,000～149,999円」	17.8%

▶信頼感のある情報源

信頼度ベスト3	
1位「個別企業の説明会・セミナー」	82.7%
2位「企業のホームページ」	77.6%
3位「大学の友人・先輩」	73.2%

内定企業・入社予定企業について

▶内定企業からの課題

課題「あり」	68.4%
--------	-------

入社予定企業の従業員規模が大きいほど、課題が出されている傾向
主な課題は、「レポート提出」「通信教育の受講」「入社前研修への参加」

▶入社予定企業の内定者・社員の印象

好印象を抱く「内定者」がいる	72.3%
好印象を抱く「採用担当者」がいる	77.3%
好印象を抱く「採用担当者以外の社員」がいる	64.4%

▶入社予定企業に対する満足度

「満足(どちらかと言えば含む)」	81.4%
------------------	-------

入社予定企業の従業員規模が大きいほど、また、入社予定企業の内定者・社員が好印象なほど、満足度は高い

学生の志向

▶勤続意向

「できるだけ長く勤めたい」	75.4%
---------------	-------

▶上昇志向

(「非常にそう思う」+「ややそう思う」)	
「出世したい」	71.7%
「起業したい」	20.4%
「有名になりたい」	43.2%
「大金を稼ぎたい」	73.9%

▶地元志向

「ずっともしくはいつかは地元で働きたい」	37.1%
----------------------	-------

社会人生活への期待

▶社会人になることについて

「楽しみ(どちらかと言えば含む)」	60.8%
-------------------	-------

楽しみな理由は
「新しい環境で刺激がありそう」「大金を稼げる」「自分の能力や可能性を伸ばせる・試せる」
「楽しみではない(どちらかと言えば含む)」39.2%
楽しみではない理由は
「自由な時間が減る」「精神的に大変そう」「人間関係が不安」

▶社会人のイメージ

やりがいを持ってバリバリ仕事 < ただ与えられた仕事をこなす
アフター5が充実 < 毎日残業で家と会社の往復のみ
電車では仕事や勉強 < 電車では居眠り・スマホ

●	調査概要	p. 4
1	就職活動の進捗状況	p. 5
2	内定獲得状況	p. 7
3	内定辞退	p. 9
4	内定企業からの課題	p.10
5	志望通りの業界・職種か	p.11
6	就職活動でかかった費用	p.12
7	一番テンションが低かった時期	p.13
8	就職活動は楽しかったか	p.15
9	入社予定企業の従業員規模	p.16
10	入社予定企業に好印象を抱く人物はいるか	p.17
11	入社予定企業に対する満足度	p.18
12	学生の勤続意向	p.19
13	学生の上昇志向	p.20
14	信頼感のある情報源	p.21
15	社会人になることをどう感じているか	p.23
16	社会人になることを「楽しみ」と感じる理由	p.24
17	社会人になることを「楽しみではない」と感じる理由	p.25
18	社会人のイメージ	p.26
19	新卒採用実施企業への要望	p.27
20	学生の地元志向	p.29
21	アルバイト経験	p.30

調 査 概 要

調査目的

2017年1月15日時点における就職活動の準備・進捗状況等から、就職活動を行なう学生の実態を明らかにすること

調査対象

2017年3月卒業予定で、民間企業への就職を希望している大学4年生・大学院2年生の男女

調査方法

インターネット調査

調査期間

2017年1月15日～18日

有効回答

710名

「JOBPASS 新卒」登録学生（393名）、株式会社クロス・マーケティングのアンケートモニター（317名）

※本調査は小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合があります。
※「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示しています。

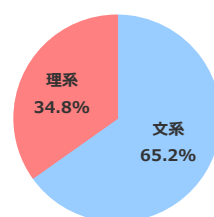
居住地域	回答数	(%)
北海道・東北地方	39	5.5
関東地方	253	35.6
北陸・甲信越地方	16	2.3
東海地方	42	5.9
近畿地方	276	38.9
中国地方	26	3.7
四国地方	4	0.6
九州地方	54	7.6
合 計	710	100.1

専 攻	回答数	(%)
文系	512	72.1
理系	198	27.9
合 計	710	100.0

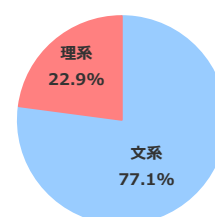
所属サークル	回答数	(%)
文化系	230	32.4
体育会系	169	23.8
イベント系	52	7.3
無所属	259	36.5
合 計	710	100.0

性 別	回答数	(%)
男性	296	41.7
女性	414	58.3
合 計	710	100.0

男 性

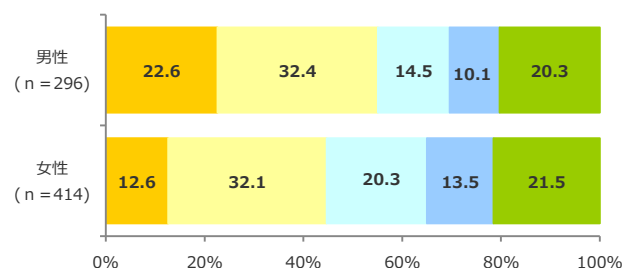


女 性



企業規模に対する志向

■ 大企業 ■ どちらかと言えば 大企業 ■ どちらかと言えば 中小企業 ■ 中小企業 ■ 企業の規模は全く意識していない

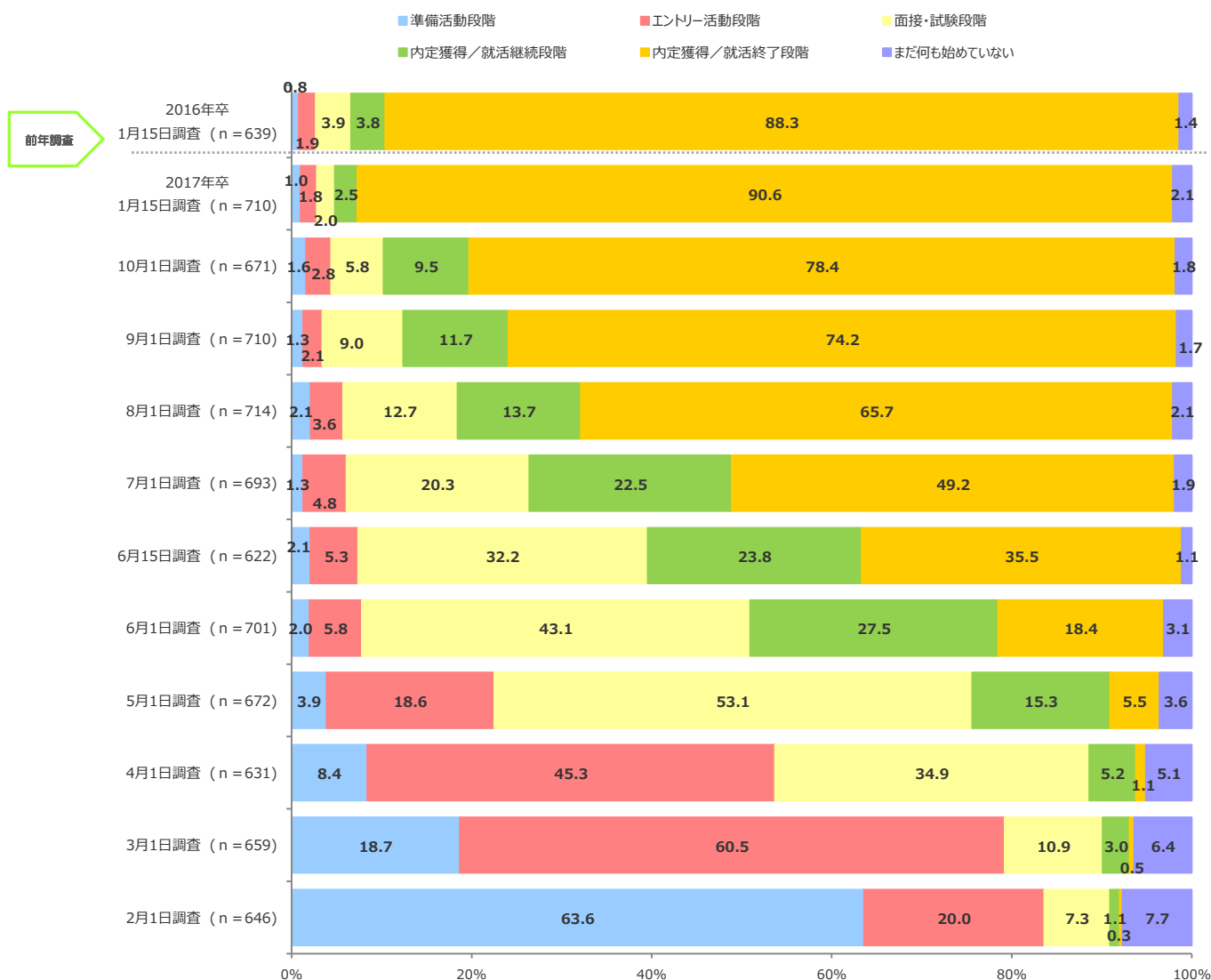


就職活動の進捗状況

学生に、2017年1月15日時点の就職活動において、“現在行なっている＜主な活動＞”を聞いた。90.6%が「内定獲得／就活終了段階」と回答しており、9割以上の学生が就職活動を終了させている。前年調査（「2016年3月卒業予定者の就職活動に関する学生調査 2016年1月15日状況」、以下同）と比較すると、2.3ポイント高い。就職活動を継続している学生については、「内定獲得／就活継続段階」が2.5%、「面接・試験段階」が2.0%となっている（図1.1）。

- ◆準備活動段階：就職活動の情報収集や就活ナビサイトへの登録、自己分析や業界研究など企業にエントリーする前の準備をし始めた段階
- ◆エントリー活動段階：説明会やエントリーシートの作成・提出など、企業にエントリー・応募し始めた段階
- ◆面接・試験段階：面接や試験など、主に企業の選考を受けている段階
- ◆内定獲得／就活継続段階：1社以上の内定を獲得したが、就活を継続している段階
- ◆内定獲得／就活終了段階：1社以上の内定を獲得し、就活を終了した段階

【図1.1】現在の就職活動のステータス：＜主な活動＞

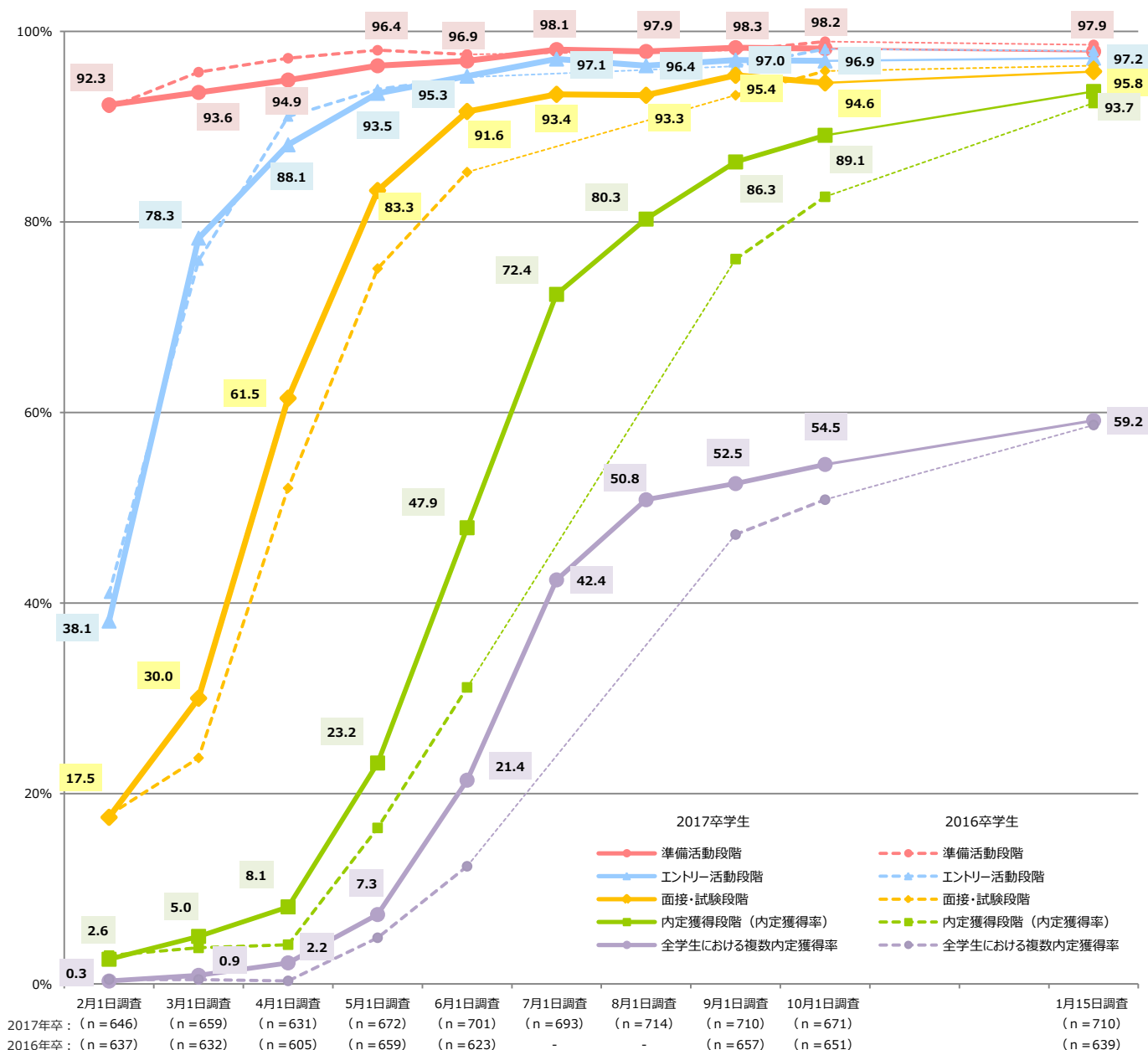


さらに、＜主な活動＞＜最も選考が進んでいる企業の状況（※）＞を合わせて、実際にどのくらいの学生が就職活動の各活動ステータスに到達しているかを見た。1月15日時点では、「準備活動段階」は97.9%、「エントリー活動段階」は97.2%、「面接・試験段階」は95.8%となっている。「内定獲得段階（“内定獲得／就活継続段階”と“内定獲得／就活終了段階”の計。以下“内定獲得率”）」は、93.7%となり、2016年10月1日調査（「2017年3月卒業予定者の就職活動に関する学生調査 2016年10月1日状況」、以下同）から4.6ポイント増加した。「エントリー活動段階」は2月から3月にかけて、「面接・試験段階」は3月から5月にかけて、「内定獲得率」は5月以降に伸びている。

2016年卒学生の進捗と比較すると、「準備活動段階」や「エントリー活動段階」はほぼ同様の推移であったのに対し、「面接・試験段階」や「内定獲得率」は、選考活動の解禁時期が早まったせいか前年より高い水準で推移していた（図1.2）。

※「図1.1 現在の就職活動のステータス：＜主な活動＞」において「準備活動段階」「エントリー活動段階」「面接・試験段階」と回答した学生に聴取。結果は、「準備活動段階」14.7%、「エントリー活動段階」29.4%、「面接・試験段階」44.1%、「内定獲得／就活継続段階」11.8%となっている。

【図1.2】 各活動ステータスに到達した学生の割合



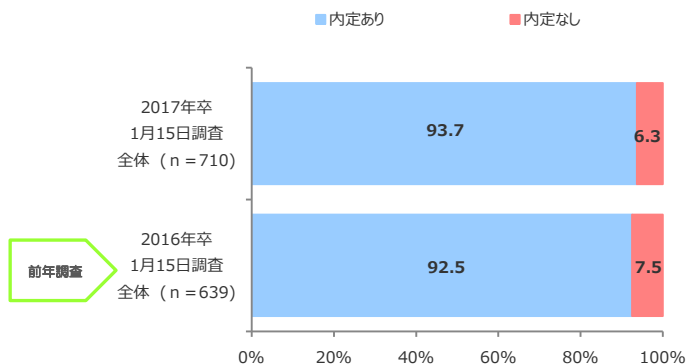
内定獲得状況

「図1.2 各活動ステータスに到達した学生の割合」から、学生の内定獲得状況の詳細を見た。

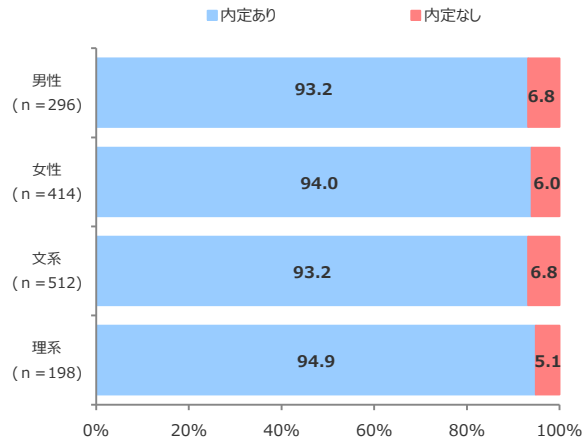
全体では、「内定あり」93.7%、「内定なし」6.3%となった（図2.1）。男女別、文理別ともに大きな差は見られなかった（図2.2）。

内定を獲得した学生に、内定獲得社数を聞くと、平均は2.4社だった。「1社」36.8%、「2社」28.1%、「3社以上」35.0%となっている。属性別に見ると、男女別では男性が、文理別では文系が、入社予定企業の従業員規模別では規模の大きい企業に入社予定の学生の方が、内定獲得社数が多い（表2）。

【図2.1】内定獲得状況：前年同時期との比較



【図2.2】内定獲得状況：属性別

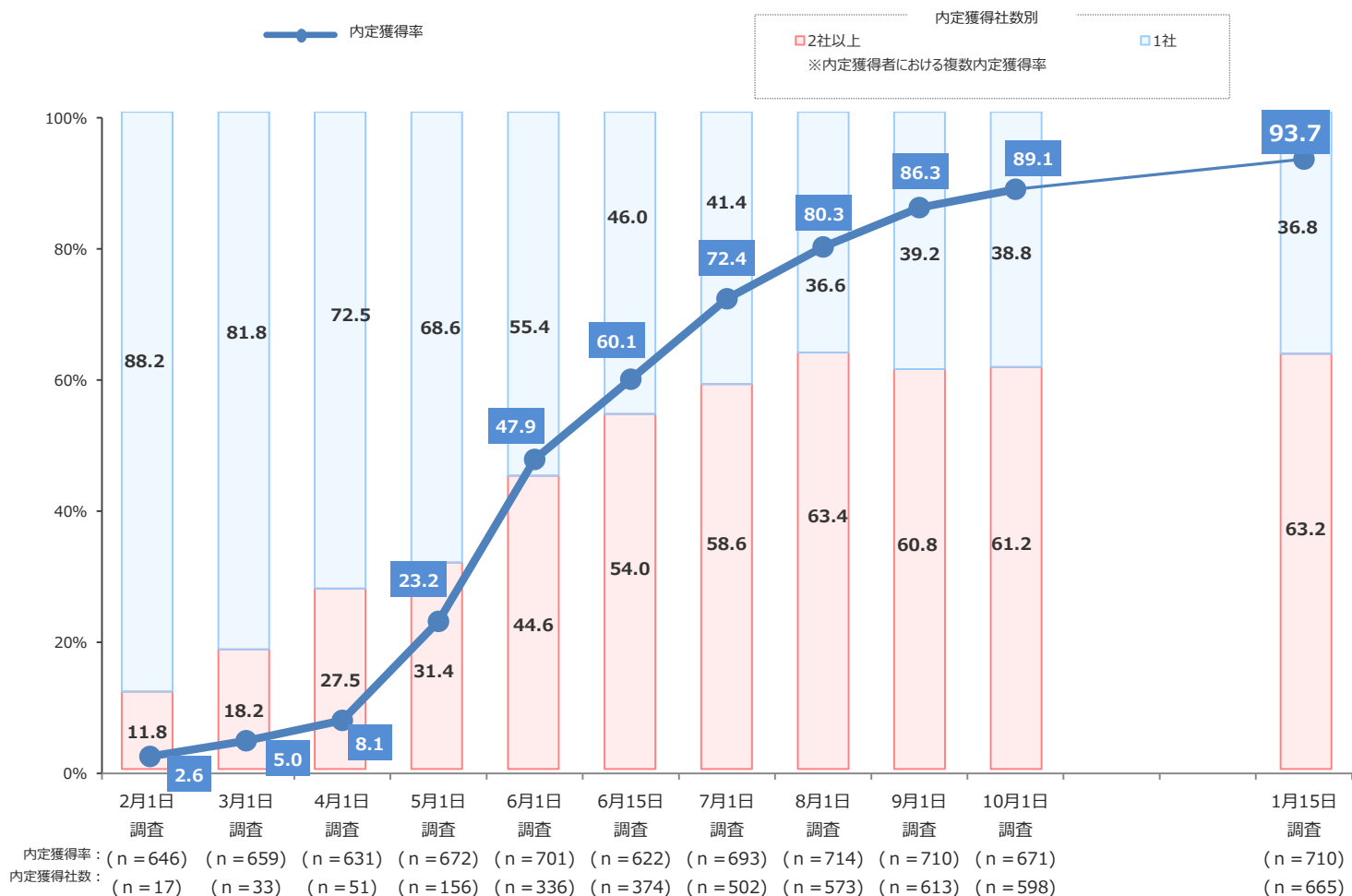


【表2】内定獲得社数：属性別

		n=30以上で			
		全体+10pt以上	全体+5pt以上	全体-5pt以下	全体-10pt以下
		1社 (%)	2社 (%)	3社以上 (%)	平均 (社)
前年調査	2017年卒 1月15日調査 全体 (n=665)	36.8	28.1	35.0	2.4
	2016年卒 1月15日調査 全体 (n=591)	36.5	27.6	35.9	2.5
	男女別				
	男性 (n=276)	39.1	24.6	36.2	2.5
	女性 (n=389)	35.2	30.6	34.2	2.3
	文理別				
	文系 (n=477)	34.6	28.9	36.5	2.5
	理系 (n=188)	42.6	26.1	31.4	2.2
	従業員規模別				
	299人以下 (n=181)	38.7	32.6	28.7	2.2
	300~999人 (n=152)	44.1	25.0	30.9	2.2
	1,000~2,999人 (n=115)	30.4	37.4	32.2	2.4
	3,000人以上 (n=176)	29.5	20.5	50.0	2.9

内定獲得率の推移を見ると、2016年10月1日調査から4.6ポイントの増加で93.7%となった。また、内定獲得者に占める複数内定獲得者の割合（以下、内定獲得者における複数内定獲得率）は、63.2%に達している（図2.3）。

【図2.3】内定獲得状況：時系列

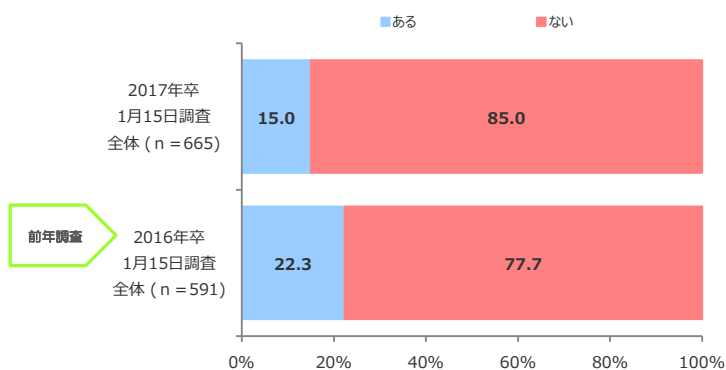


内定辞退

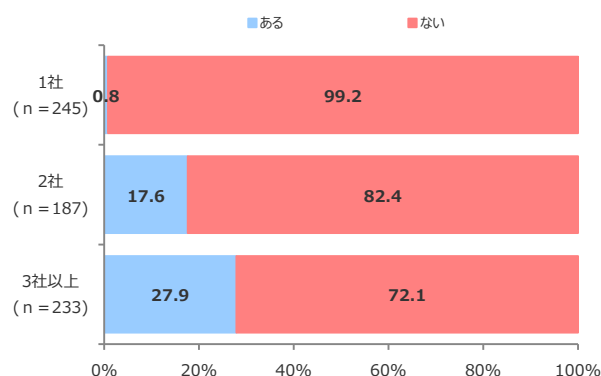
「2 内定獲得状況」において、1月15日時点で内定を獲得している学生に、“内定承諾書等の書類提出後”や“内定式出席後”の内定辞退の状況について聞いた。内定承諾書等の書類提出後の内定辞退が「ある」と回答した学生は15.0%で、前年調査よりも7.3ポイント減少した（図3.1）。内定獲得社数別に見ると、内定獲得社数が多いほど、内定承諾書等の書類提出後の内定辞退が「ある」とした学生の割合が高い。「3社以上」の学生では、4分の1超の27.9%となっている（図3.2）。

また、内定式出席後の内定辞退が「ある」と回答した学生は5.9%で、内定承諾書等の書類提出後の内定辞退よりも少ない（図3.3）。内定獲得社数別に見ると、内定獲得社数が多くなるほど、「ある」の回答割合は高まる傾向があった（図3.4）。

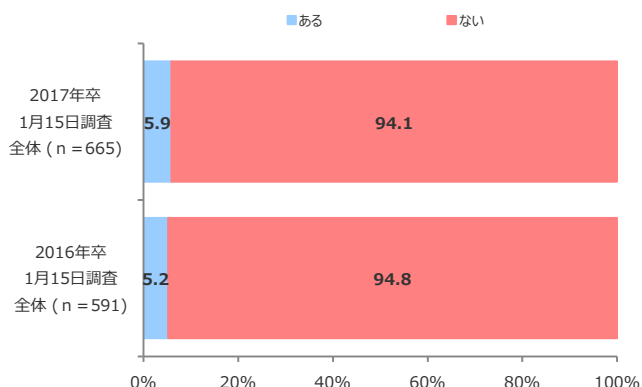
【図3.1】内定承諾書等の書類提出後の辞退



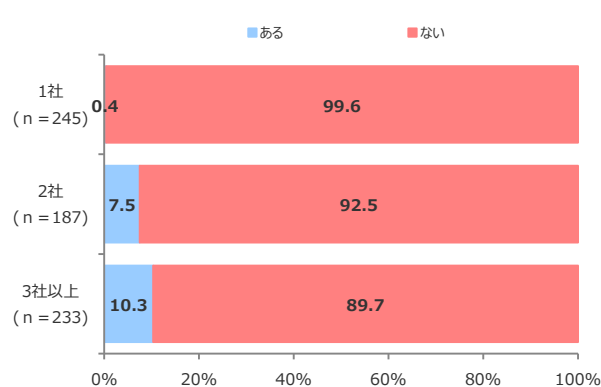
【図3.2】内定承諾書等の書類提出後の辞退：内定獲得社数別



【図3.3】内定式出席後の辞退



【図3.4】内定式出席後の辞退：内定獲得社数別



内定企業からの課題

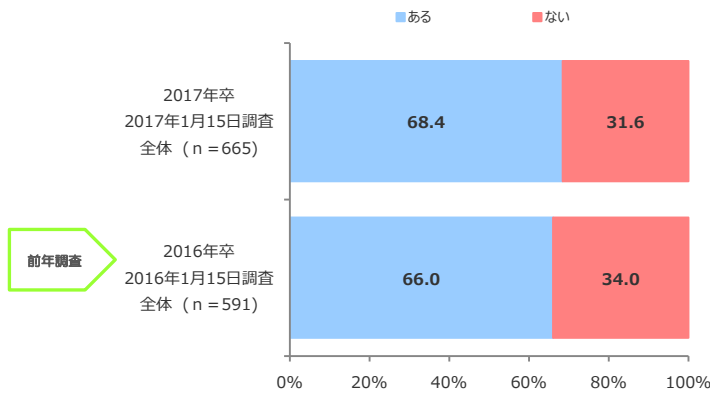
「2 内定獲得状況」において、1月15日時点で内定を獲得している学生に、内定企業から出されている課題について聞いた。課題が「ある」と回答した学生は68.4%、「ない」と回答した学生は31.6%だった（図4.1）。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、規模が大きい企業に入社予定の学生ほど、課題が「ある」割合が高くなっている（図4.2）。

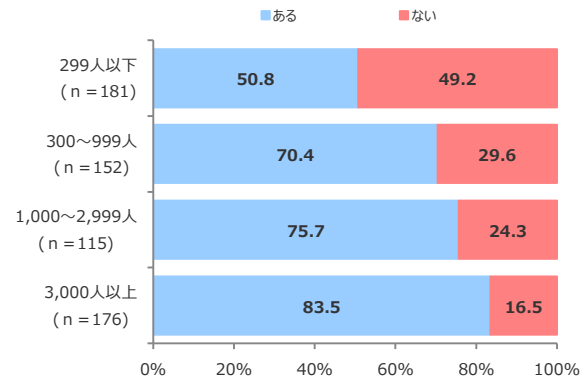
さらに、内定企業から出された課題が「ある」と回答した学生に、その内容を聞いた。最も多かったのは、「レポート等の課題提出」で44.0%だった。続いて、「通信教育（eラーニング等）の受講」43.5%、「入社前研修（集合型）への参加」37.6%となっている（図4.3）。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、「通信教育（eラーニング等）の受講」は、従業員規模が大きい企業に入社予定の学生ほど、回答割合が高くなっている。半面、「職場体験（アルバイトやインターンシップ）」では、従業員規模の小さい企業に入社予定の学生ほど回答割合が高くなっていた。内定者の多さや入社後の即戦力としての期待に違いがあるようだ（表4）。

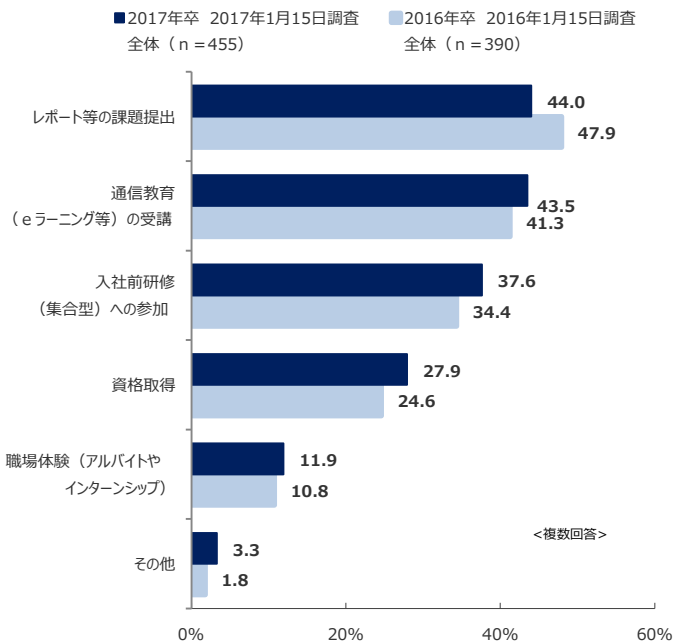
【図4.1】内定企業から課題が出されている課題があるか



【図4.2】内定企業から課題が出されている課題があるか
：入社予定企業の従業員規模別



【図4.3】内定先から出されている課題の内容：前年同時期との比較



【表4】内定先から出されている課題の内容
：入社予定企業の従業員規模別

		レポート等の課題提出	通信教育（eラーニング等）の受講	入社前研修（集合型）への参加	資格取得	職場体験（アルバイトやインターンシップ）	その他	平均回答個数
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(個)
1月15日調査 全体 (n=455)		44.0	43.5	37.6	27.9	11.9	3.3	1.7
入社予定企業の従業員規模別	299人以下 (n=92)	35.9	32.6	38.0	29.3	22.8	3.3	1.6
	300～999人 (n=107)	53.3	39.3	38.3	20.6	13.1	3.7	1.7
	1,000～2,999人 (n=87)	39.1	46.0	44.8	28.7	8.0	4.6	1.7
	3,000人以上 (n=147)	44.9	55.1	32.7	31.3	4.1	2.7	1.7

志望通りの業界・職種か

「1 就職活動の進捗状況」において「内定獲得／就活終了段階」と回答した学生に、入社予定企業の“業界”や“職種”について、就職活動開始当初から志望していたものか聞いた。“業界”については58.3%が（図5.1）、“職種”については64.4%の学生が、就職活動開始当初から志望していたものだと回答した（図5.2）。

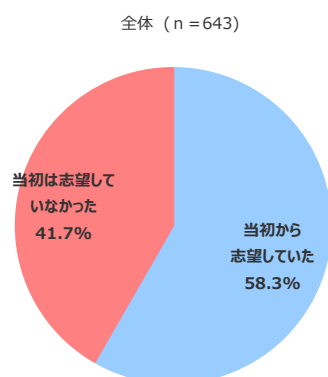
属性別に、志望通りの業界または職種で入社予定の学生の状況を見た。

男女別では、男性の方が女性よりも志望の業界または職種で入社予定の学生の割合が高い。

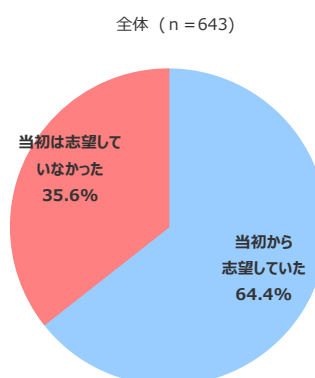
文理別では、理系の方が文系よりも志望の業界または職種で入社予定の学生の割合が高い。特に、業界については文系よりも12.1ポイント高くなっており、希望が叶った学生が多いようだ。

入社予定企業の従業員規模別で見ると、「299人以下」の企業に入社予定の学生では、他の規模の企業に入社予定の者よりも、業界・職種ともに志望通りだった割合が低くなっている。入社予定企業の従業員規模が小さくなるほど、就職活動が大変だったと感じる学生の割合が増えていることから（P15参照）、志望通りにはならず妥協せざるを得なかった学生が一定数いることがうかがえる（表5）。

【図5.1】入社予定企業の“業界”は当初から志望していたものか



【図5.2】入社予定企業の“職種”は当初から志望していたものか



【表5】入社予定企業の“業界”“職種”は当初から志望していたものか：属性別

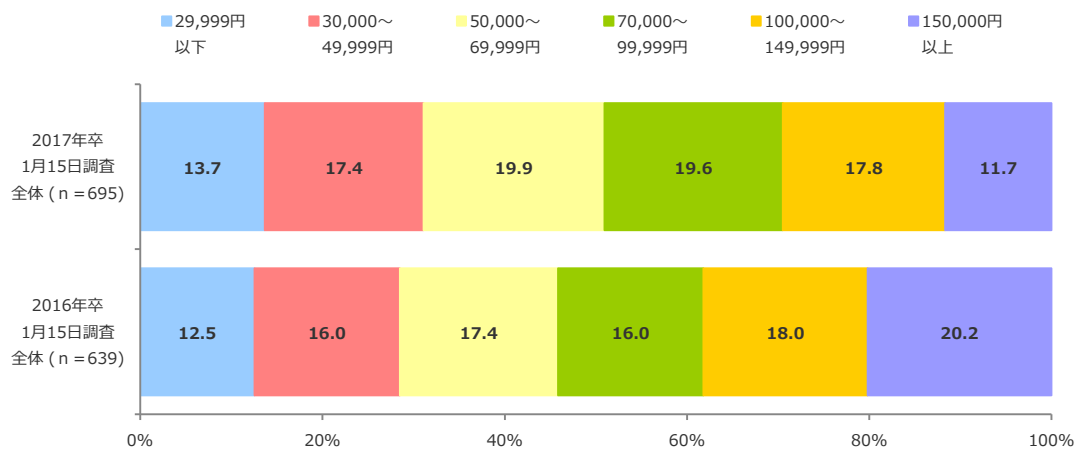
		n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下			
				<業 界>	<職 種>
				い 志 当 た 望 初 し か て ら (%)	い 志 当 た 望 初 し か て ら (%)
全 体 (n = 643)				58.3	64.4
男 女 別	男性 (n = 262)			61.8	69.8
	女性 (n = 381)			55.9	60.6
文 理 別	文系 (n = 461)			54.9	62.3
	理系 (n = 182)			67.0	69.8
入 社 予 定 企 業 の 従 業 員 規 模 別	299人以下 (n = 176)			54.5	59.1
	300~999人 (n = 144)			61.8	66.0
	1,000~2,999人 (n = 110)			57.3	66.4
	3,000人以上 (n = 173)			61.8	71.1

就職活動でかかった費用

「 1 就職活動の進捗状況」において、「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に、就職活動でかかった費用を聞いた。回答が多かった順に、「50,000～69,999円」19.9%、「70,000～99,999円」19.6%、「100,000～149,999円」17.8%となっている。また、就職活動に100,000円以上かかった学生の割合は、前年の38.2%から29.5%に減少した（図6）。

居住地域別に見ると、「北海道・東北地方」と「北陸・甲信越地方」では、「50,000円未満」の学生が4割を超えており、他の地域よりも高い。一方、「中国・四国地方」では、就職活動に「100,000円以上」かかった学生の割合が他の地域よりも高く、43.3%に上っている（表6）。

【図6】就職活動でかかった費用：前年同時期との比較



【表6】就職活動でかかった費用：居住地域別

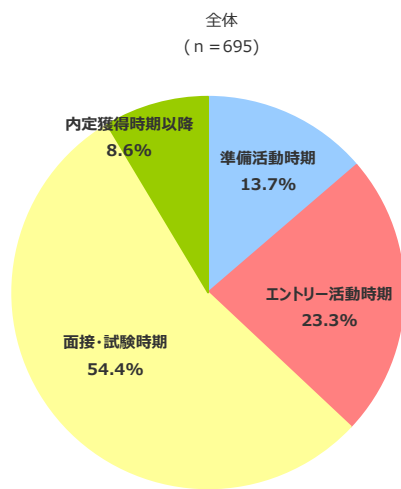
		50,000円未満 (%)	50,000円以上 100,000円未満 (%)	100,000円以上 (%)
全体 (n=695)		31.1	39.4	29.5
居住地域別	北海道・東北地方 (n=37)	40.5	32.4	27.0
	関東地方 (n=244)	30.3	42.2	27.5
	北陸・甲信越地方 (n=16)	43.8	25.0	31.3
	東海地方 (n=42)	33.3	38.1	28.6
	近畿地方 (n=273)	28.9	41.8	29.3
	中国・四国地方 (n=30)	36.7	20.0	43.3
	九州地方 (n=53)	30.2	35.8	34.0

一番テンションが低かった時期

「1 就職活動の進捗状況」において「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に、就職活動期間中に一番テンションが低かった（悩んだ・苦しかった・大変だった）時期を聞いた。最も回答を集めたのは、「面接・試験時期」で54.4%を占めている（図7）。

内定獲得状況別に見ると、「内定なし」の学生は、「エントリー活動期間」が一番テンションが低かったようだ。また、内定獲得社数が「3社以上」の学生は、その他の学生よりも「内定獲得時期以降」の回答割合が若干高いのも特徴である（表7）。

【図.7】 一番テンションが低かった時期



【表7】 一番テンションが低かった時期：内定獲得状況別

		準備活動時期 (%)	エントリー活動時期 (%)	面接・試験時期 (%)	内定獲得時期以降 (%)
全体 (n=695)		13.7	23.3	54.4	8.6
内定獲得状況別	内定なし (n=30)	30.0	36.7	33.3	0.0
	内定あり (n=665)	12.9	22.7	55.3	9.0
	1社 (n=245)	11.8	21.6	59.6	6.9
	2社 (n=187)	9.1	23.5	60.4	7.0
	3社以上 (n=233)	17.2	23.2	46.8	12.9

準備活動時期

- まず何をすればいいかわからず、セミナーに行き、自己分析をしてみるものの、自分がわからなくなってしまった。
- 夏期インターンシップのための面接で、外資系コンサルタントばかり志望していたためか、周りの学生のレベルの高さに愕然とした。
- 何をやればいいかわからなかった。周りはインターンシップ等を始めていて焦った。
- 夏期インターンシップに20社応募して、2社しか受からなかったこと。面接を受けるたびに落ちていた。
- 夏期インターンシップ参加のために、自己分析やエントリーシートの書き方を一から学んでいたが、その時期がテストと重なり、精神的に一番しんどかった。
- 自己分析がうまくいかず、自分が就職したい企業や業界がまったくわからなかった。面接対策のセミナーに参加したとき、一緒に参加していた学生にたくさんダメ出しをされて、さらに自信がなくなった。

エントリー活動時期

- 1月や2月からエントリーシートの提出ラッシュになり、手書きで郵送するエントリーシートの作成にかなり時間をとられ大変だった。志望度の高い企業も、提出が間に合わず諦めたこともあった。
- エントリーシートの作成は、気がのらず書き上げることが難しかった。特に自己PR、志望動機など基本的なところがブレていたため、数をこなすことができなかった。
- 進路に迷っていた。エントリーするにも、企業が多過ぎてどこにエントリーすべきか悩んだ。
- 時間をかけてエントリーシートを書いたのに、ほとんど落ちてしまった。
- 様々な応募企業のエントリーシートの作成で大変多忙だった上に、説明会参加やSPIの学習もせねばならず、精神的にも体力的にも疲弊していた。
- 説明会が様々なところで開催されるため、電車の運賃などがかかること、また、会社ごとの個別の説明会もあるため、それに行くための運賃もかさみ、すごくしんどかった。移動中にエントリーシートなどを書こうと思ったが、疲れて一つもできなかった。
- 単独説明会や合同説明会を1日にいくつも入れ、移動疲れが大きかった。

面接・試験時期

- 周囲が内定を獲得し就活を終えていく中、最終選考までなかなか残れず、1人で就活を続けていた。
- 思っていたよりも面接でどんどん落とされて、志望業界の企業が絞られていった。
- 教育実習と被って、企業にお願いをしても面接時期をずらしてくれなかった。
- 練習のつもりで受けていた志望度の低い企業に落ち続けた。本命の面接が近づいているのに、1つも他の企業の内定が取れなかった。
- グループディスカッションで他の人に圧倒されてあまり主張できない。
- グループディスカッションで発言がうまくいかなかった。グループ面接で、高学歴でよく話せる人と一緒になって自分がかかなり劣っていると感じた。
- 集団面接時に、他の人が自分よりもすらすらと話し、面接官も熱心に質問をしている様子を見て、自分の準備不足や緊張して話がうまく出来ない駄目さに落ち込みました。
- 5月頃に、大手企業の最終面接までいったものの、その後連絡がなく、全体的にやる気が落ちました。面接への苦手意識が強まり、緊張している自分をより意識してしまうようになりました。
- 一次面接で落とされる人は減多にいないなどの書き込みを見ていて、安易な気持ちで面接に挑んだが、一次面接で落とされることが多かった。次の面接に行ける企業が一気に少なくなり、自分は社会から必要とされていないのではないかなと思うようになった。

内定獲得時期以降

- 第一志望の企業の二次面接の返事の前に、第二志望の会社の内定を受諾するかどうかの締め切りがあった。
- 何社も内定をいただいたが、優遇してもらっているのがはっきりわかる企業を辞退するのが非常に心苦しかった。
- 何社も内定があり、入社したい1社を絞りきれない。もっと良い企業があったのではないかと悩む。
- 自分は本当にこの企業に入りたいのか？と悩んだ。自分がどこに向いているのかわからなかった。
- 働くことがリアルに感じられるようになり、もっと良い就活の仕方があったのではないかなと思う。

就職活動は楽しかったか

「1 就職活動の進捗状況」において「内定獲得／就活終了段階」と回答した学生に、就職活動の印象を聞いた。実際の就職活動が、活動開始時に想像していたよりも「楽しかった」との回答が11.5%、「どちらかと言えば楽しかった」が31.4%となり、これらを合わせた「楽しかった派（以下同）」は合計42.9%に上る。一方、「大変だった」「どちらかと言えば大変だった」を合わせた「大変だった派（以下同）」は合計57.1%と6割に迫り、「楽しかった派」より多くなっている（図8.1）。

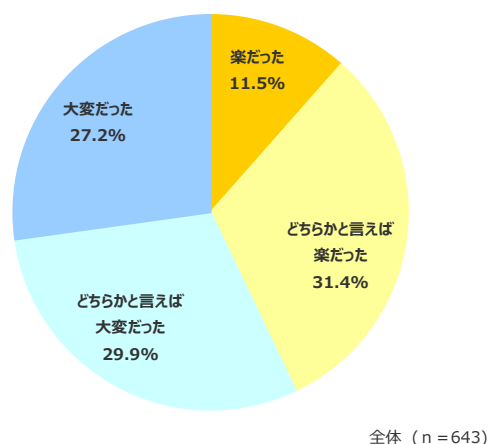
文理別では、「楽しかった派」と「大変だった派」の割合は概ね同程度だが、「大変だった」は文系で30.4%、理系で19.2%となっており、文系の方がより苦労をしたと感じている学生が多いようだ（図8.2）。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、入社予定企業の従業員規模が大きくなるほど、「楽しかった派」の割合が高くなり、就職活動が順調だった様子がうかがえる（図8.3）。

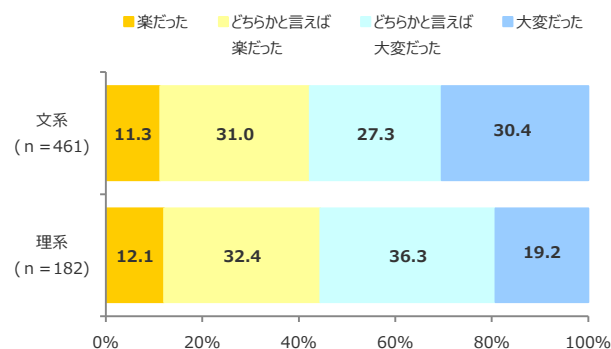
居住地域別に見ると、「北海道・東北地方」と「北陸・甲信越地方」では、「大変だった派」を「楽しかった派」が上回っている。また、九州地方では、他の地域に比べて「大変だった派」の回答割合が高くなっていた。

「6 就職活動でかかった費用」との関係を見ると、「50,000円未満」の学生は「楽しかった派」の割合が高い一方、「50,000円以上10,000万円未満」または「100,000万円以上」の学生では、「大変だった派」が多数派となっている（表8）。

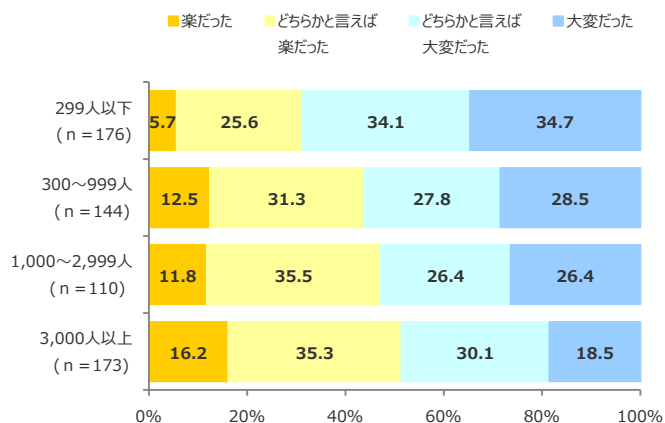
【図8.1】就職活動は想像よりも楽／大変だったか



【図8.2】就職活動は想像よりも楽／大変だったか
：入社予定企業の従業員規模別



【図8.3】就職活動は想像よりも楽／大変だったか
：入社予定企業の従業員規模別



【表8】就職活動は想像よりも楽／大変だったか
：居住地域別
：就職活動にかかった費用別

		楽しかった派 (%)	大変だった派 (%)
全体 (n = 643)		42.9	57.1
居住地域別	北海道・東北地方 (n = 33)	51.5	48.5
	関東地方 (n = 225)	42.2	57.8
	北陸・甲信越地方 (n = 15)	66.7	33.3
	東海地方 (n = 39)	46.2	53.8
	近畿地方 (n = 258)	41.1	58.9
	中国・四国地方 (n = 29)	44.8	55.2
	九州地方 (n = 44)	38.6	61.4
就職活動にかかった費用別	50,000円未満 (n = 196)	53.1	46.9
	50,000円以上100,000円未満 (n = 255)	39.6	60.4
	100,000円以上 (n = 192)	37.0	63.0

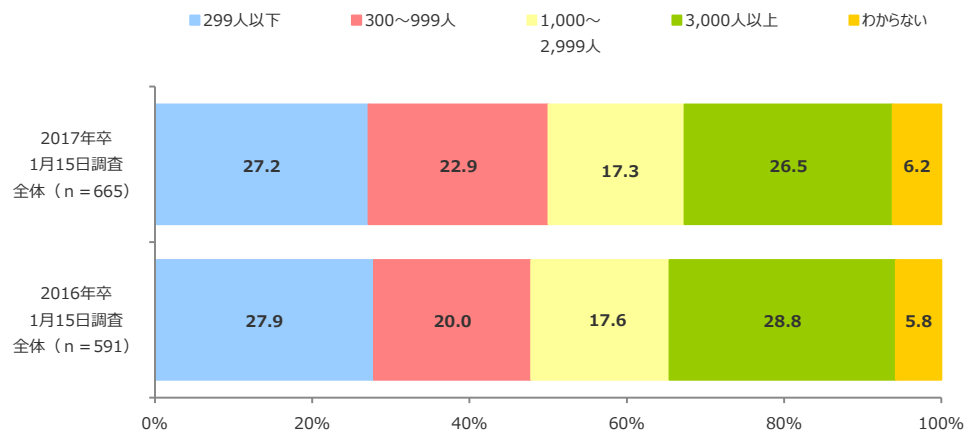
入社予定企業の従業員規模

「2 内定獲得状況」において、1月15日時点で内定を獲得している学生に、入社予定企業（複数内定獲得者は、現時点で最も入社志望度が高い企業）の従業員規模を聞いた。回答が多い順に、「299人以下」の企業に入社予定の学生が27.2%、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生が26.5%となっている。前年調査から大きな変化はないようだ（図9.1）。

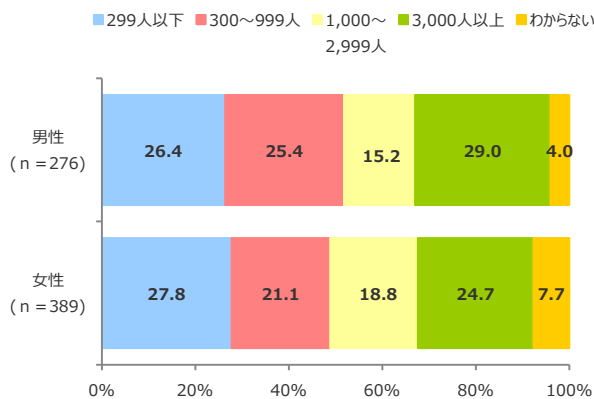
男女別に見ると、男性は女性よりも「3,000人以上」の企業に入社予定である学生の割合が高い。半面、女性は男性よりも「1,000～2,999人」の企業に入社予定の学生の割合が高くなっている（図9.2）。

企業規模に対する志向別に見ると、「大企業志向」の学生の44.7%は「3,000人以上」の企業に入社予定である。半面、約3割の学生は「299人以下」もしくは「300～999人」の企業に入社予定であり、自身の志向と入社予定企業の規模が合致していない。一方、中小企業志向の学生の約8割は、「299人以下」もしくは「300～999人」の企業に入社予定である（図9.3）。

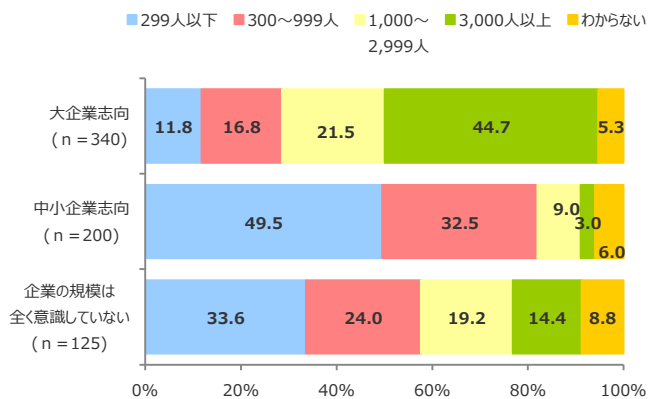
【図9.1】入社予定企業の従業員規模



【図9.2】入社予定企業の従業員規模：男女別



【図9.3】入社予定企業の従業員規模：企業規模に対する志向別

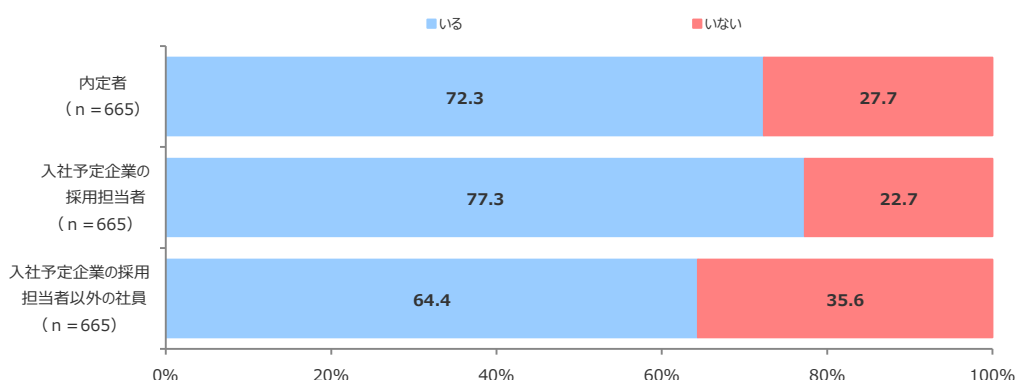


入社予定企業に 好印象を抱く人物はいるか

内定を獲得した学生に、入社予定企業（複数内定獲得者は、現時点で最も入社志望度が高い企業）の「内定者」「採用担当者」「採用担当者以外の社員」の中に、“一緒に働きたい”“もっと親睦を深めたい”など、好印象をもつ人物はいるか聞いた。「内定者」の中に好印象をもつ人物が「いる」と回答した学生は72.3%、「採用担当者」の中に好印象を持つ人物が「いる」と回答した学生は77.3%、「採用担当者以外の社員」の中に好印象をもつ人物が「いる」と回答した学生は64.4%だった。「採用担当者」は選考過程で接する機会が多いためか、学生は好印象をもちやすいようだ（図10）。

また、入社予定企業の従業員規模別に見ると、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生は、「内定者」に好印象をもっている学生の割合が84.1%となり、他の規模の企業に入社予定の学生よりも高い。大企業では、内定者数が多いため、気の合う学生を見つけやすいのかもしれない。一方、「299人以下」の企業に入社予定の学生では、「採用担当者以外の社員」に好印象をもっているという回答割合が、他の規模の企業に入社予定の学生よりも高くなっていた。規模の小さい企業では、採用担当以外の社員も選考に参加するなど学生と関わる機会が多いことが推測される（表10）。

【図10】入社予定企業に好印象をもつ人物はいるか



【表10】好印象をもつ人物が「いる」と回答した学生の割合：属性別

		内定者	入社予定企業の採用担当者	入社予定企業の採用担当者以外の社員
		(%)	(%)	(%)
全体 (n=665)		72.3	77.3	64.4
男女別	男性 (n=276)	74.3	76.1	65.6
	女性 (n=389)	71.0	78.1	63.5
文理別	文系 (n=477)	71.7	77.6	63.5
	理系 (n=188)	73.9	76.6	66.5
従業員規模別	299人以下 (n=181)	64.1	79.6	71.8
	300~999人 (n=152)	67.8	71.7	57.2
	1,000~2,999人 (n=115)	76.5	72.2	56.5
	3,000人以上 (n=176)	84.1	84.1	68.8

入社予定企業に対する満足度

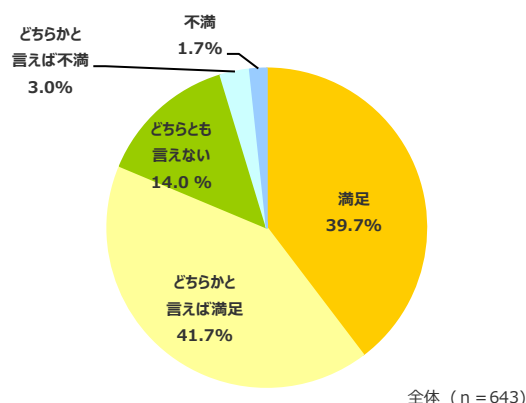
「 1 就職活動の進捗状況」において「内定獲得／就活終了段階」と回答した学生に、入社予定企業に対する満足度を聞いた。「満足」39.7%、「どちらかと言えば満足」41.7%となり、学生の満足度（「満足」と「どちらかと言えば満足」の計、以下同）は81.4%と高い（図11.1）。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生は、「満足」と回答した学生の割合が50.3%と高く、満足度も最も高い。半面、入社予定企業の従業員規模が小さくなるほど、「満足」と回答した学生の割合は低下し、「どちらとも言えない」の回答割合が増加していく。入社予定企業の従業員規模が大きい方が、満足度が高くなる傾向があるようだ（図11.2）。

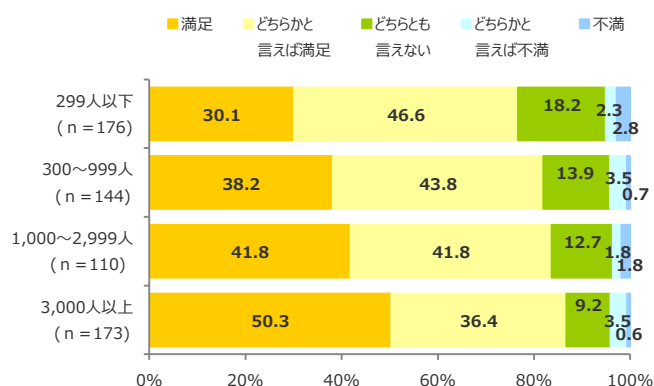
「 5 志望通りの業界・職種か」との関係を見ると、「当初から志望していた」業界または職種で企業に入社予定の学生ほど、満足度が高くなっている（図11.3）。

「 10 入社予定企業に好印象を抱く人物はいるか」との関係を見ると、入社予定企業の「内定者」「採用担当者」「採用担当者以外の社員」の中に好印象を抱く人物が「いる」と回答した学生は、「いない」と回答した学生よりも入社予定企業に対する満足度が高い。一方、入社予定企業の「内定者」「採用担当者」「採用担当者以外の社員」の中に好印象を抱く人物が「いない」と回答した学生は、「いる」と回答した学生よりも「どちらとも言えない」の割合が高いのが特徴である（表11）。

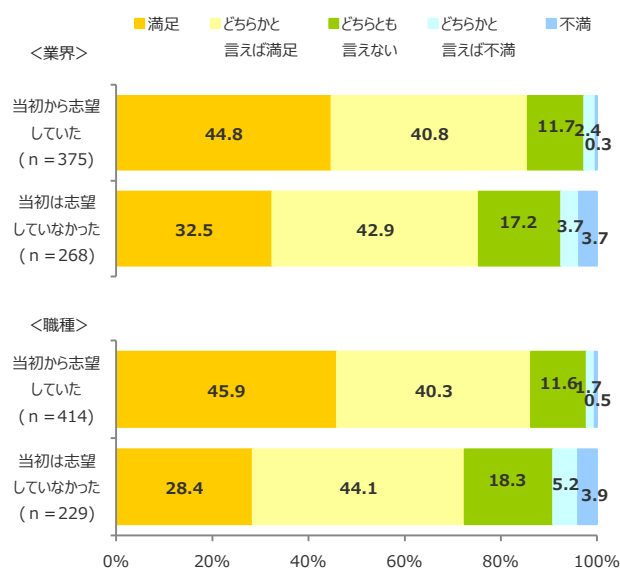
【図11.1】入社予定企業に対する満足度



【図11.2】入社予定企業に対する満足度：入社予定企業の従業員規模別



【図11.3】入社予定企業に対する満足度：業界・職種は志望通りか別



【表11】入社予定企業に対する満足度：好印象をもつ人物の有無別

			満足	どちらかと言えば満足	どちらとも言えない	どちらかと言えば不満	不満
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n = 643)			39.7	41.7	14.0	3.0	1.7
好印象をもつ人物の有無別	内定者	いる (n = 472)	44.7	42.2	9.5	2.5	1.1
		いない (n = 171)	25.7	40.4	26.3	4.1	3.5
	採用担当者	いる (n = 504)	44.0	42.3	10.3	2.4	1.0
		いない (n = 139)	23.7	39.6	27.3	5.0	4.3
	採用担当以外の社員	いる (n = 420)	45.7	40.5	9.8	2.9	1.2
		いない (n = 223)	28.3	43.9	22.0	3.1	2.7

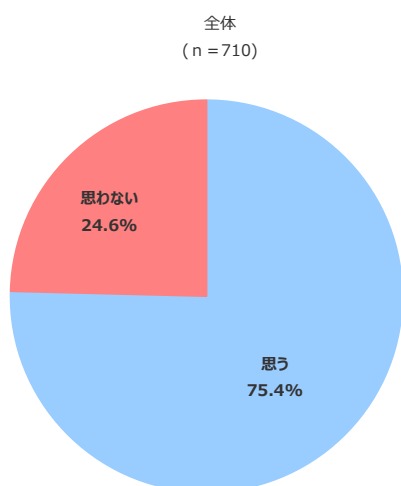
学生の勤続意向

学生に、大学卒業後に最初に就職した企業に「できるだけ長く勤めたい」と思うか聞いた。「思う」と回答した学生は75.4%で、全体の4分の3となっている（図12）。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生では、「思う」の回答割合が高くなっており、入社予定企業への思い入れが強いことがうかがえる。

「10 入社予定企業に好印象を抱く人物はいるか」との関係を見ると、入社予定企業の「内定者」「採用担当者」「採用担当者以外の社員」の中に好印象をもつ人物が「いない」と回答した学生は、「いる」と回答した学生よりも、入社予定企業にできるだけ長く勤めたいと「思う」学生の割合が低くなっている（表12）。

【図12】大学卒業後に最初に就職した企業に「できるだけ長く勤めたい」と思うか



【表12】大学卒業後に最初に就職した企業に「できるだけ長く勤めたい」と思うか：属性別

		n=30以上で		思う (%)	思わない (%)
		全体 +10pt以上	全体 +5pt以上		
		全体 -5pt以下	全体 -10pt以下		
全体 (n=710)				75.4	24.6
男女別	男性 (n=296)			73.6	26.4
	女性 (n=414)			76.6	23.4
文理別	文系 (n=512)			74.0	26.0
	理系 (n=198)			78.8	21.2
入社予定企業の従業員規模別	299人以下 (n=181)			74.0	26.0
	300~999人 (n=152)			75.0	25.0
	1,000~2,999人 (n=115)			74.8	25.2
	3,000人以上 (n=176)			82.4	17.6
好印象をもつ人物の有無別	内定者	いる (n=481)		79.6	20.4
		いない (n=184)		66.8	33.2
	採用担当者	いる (n=514)		79.4	20.6
		いない (n=151)		64.9	35.1
	採用担当者以外の社員	いる (n=428)		78.3	21.7
		いない (n=237)		72.2	27.8

学生の上昇志向

学生の上昇志向について、「出世したいか」「起業したいか」「業界やその世界で有名になりたいか」「自分の力で大金を稼ぎたいか」の4項目を聞いた。

「出世したいか」については、「ややそう思う」が40.6%、「非常にそう思う」が31.1%となり、71.7%が出世意向があった。女性よりも男性の方がその意向が強く、また、入社予定企業の従業員規模が大きい学生ほど、出世することを前向きに捉えている（表13.1）。

「起業したいか」については、「まったくそう思わない」が49.3%と半数近くを占めた。「あまりそう思わない」も30.3%に上り、起業に対するハードルは高いようだ（表13.2）。

「業界やその世界で有名になりたいか」については、「あまりそう思わない」が34.1%で最多となった。男女別に見ると、男性は女性に比べて「非常にそう思う」「ややそう思う」の回答割合が高い。また、「3,000人以上」の規模の企業に入社予定の学生は、他の学生に比べて「非常にそう思う」の回答割合が高くなっていた（表13.3）。

「自分の力で大金を稼ぎたいか」については、「ややそう思う」が46.6%、「非常にそう思う」が27.3%となった。男女別に見ると、「非常にそう思う」の回答割合は男性39.2%、女性18.8%となり、男性の方が収入に対するこだわりが強くなっている（表13.4）。

【表13.1】出世したいか：属性別

		そ う 常 思 に う	そ や う 思 う	そ あ う ま 思 り わ な い	そ ま う っ 思 た わ く な い
		(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=710)		31.1	40.6	21.5	6.8
男女別	男性 (n=296)	46.6	35.1	11.1	7.1
	女性 (n=414)	20.0	44.4	29.0	6.5
従業員規模別	299人以下 (n=181)	25.4	42.0	24.9	7.7
	300~999人 (n=152)	31.6	42.1	21.7	4.6
	1,000~2,999人 (n=115)	33.9	42.6	15.7	7.8
	3,000人以上 (n=176)	39.2	40.3	16.5	4.0

【表13.2】起業したいか：属性別

		そ う 常 思 に う	そ や う 思 う	そ あ う ま 思 り わ な い	そ ま う っ 思 た わ く な い
		(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=710)		4.9	15.5	30.3	49.3
男女別	男性 (n=296)	7.4	18.6	35.8	38.2
	女性 (n=414)	3.1	13.3	26.3	57.2
従業員規模別	299人以下 (n=181)	4.4	18.8	27.1	49.7
	300~999人 (n=152)	4.6	14.5	34.9	46.1
	1,000~2,999人 (n=115)	3.5	12.2	31.3	53.0
	3,000人以上 (n=176)	3.4	15.9	29.0	51.7

【表13.3】業界やその世界で有名になりたいか：属性別

		そ う 常 思 に う	そ や う 思 う	そ あ う ま 思 り わ な い	そ ま う っ 思 た わ く な い
		(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=710)		15.9	27.3	34.1	22.7
男女別	男性 (n=296)	23.3	36.5	27.7	12.5
	女性 (n=414)	10.6	20.8	38.6	30.0
従業員規模別	299人以下 (n=181)	13.3	28.2	33.1	25.4
	300~999人 (n=152)	15.8	25.0	38.2	21.1
	1,000~2,999人 (n=115)	12.2	27.8	36.5	23.5
	3,000人以上 (n=176)	21.0	29.5	29.5	19.9

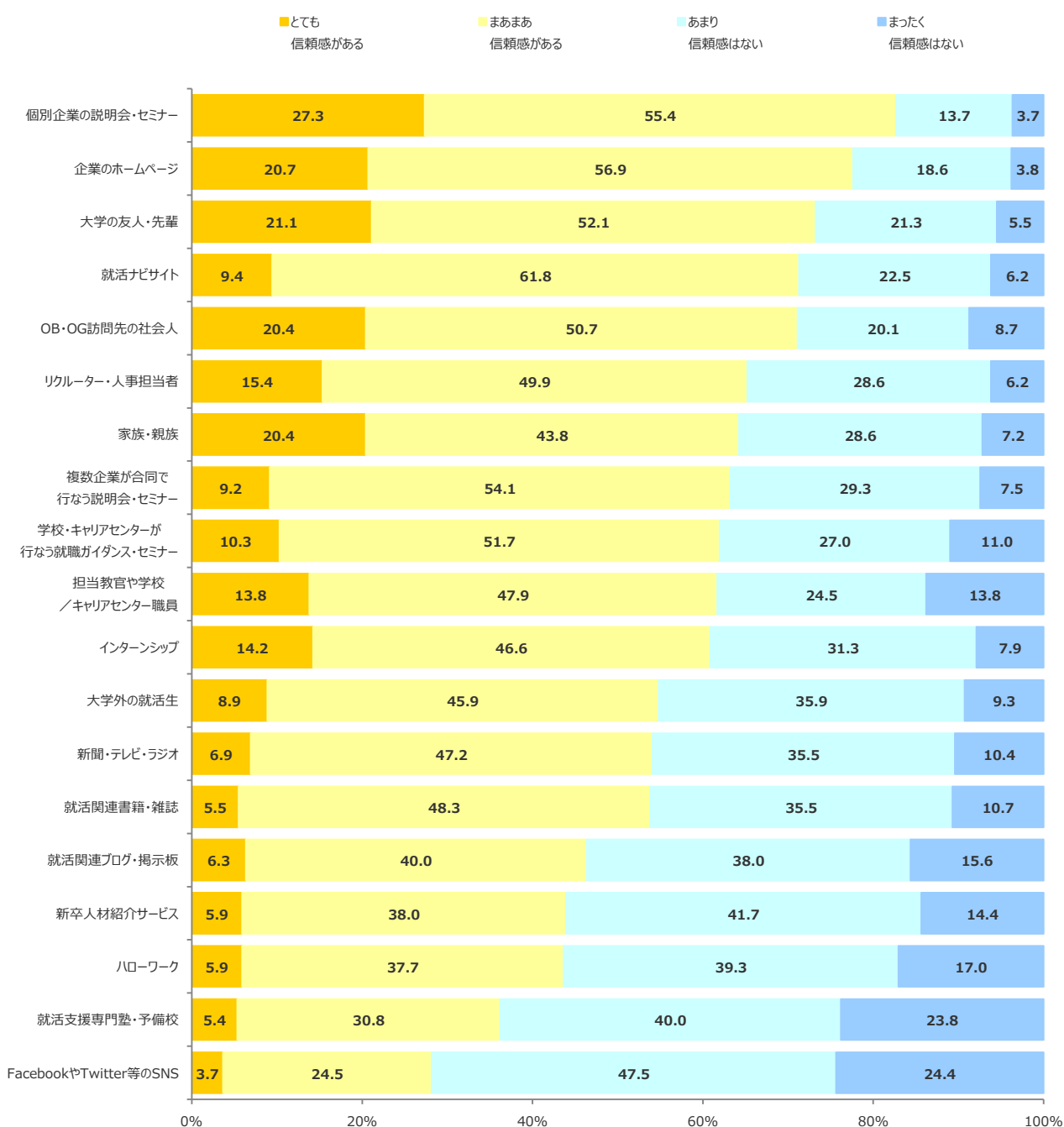
【表13.4】自分の力で大金を稼ぎたいか：属性別

		そ う 常 思 に う	そ や う 思 う	そ あ う ま 思 り わ な い	そ ま う っ 思 た わ く な い
		(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=710)		27.3	46.6	19.6	6.5
男女別	男性 (n=296)	39.2	44.3	11.1	5.4
	女性 (n=414)	18.8	48.3	25.6	7.2
従業員規模別	299人以下 (n=181)	26.5	48.1	19.3	6.1
	300~999人 (n=152)	27.6	44.1	21.7	6.6
	1,000~2,999人 (n=115)	27.0	47.8	15.7	9.6
	3,000人以上 (n=176)	29.0	48.3	18.2	4.5

信頼感のある情報源

学生に、以下に挙げた19の機関・人・媒体が発する企業の情報・評判についてどのように感じているかを聞いた。「とても信頼感がある」と「まあまあ信頼感がある」の合計（以下、信頼度）が高いのは、「個別企業の説明会・セミナー」で82.7%、「企業のホームページ」77.6%、「大学の友人・先輩」73.2%、「就活ナビサイト」71.2%となっている。一方、信頼度が低いものは、順に「Facebookやtwitter等のSNS」、「就活支援専門塾・予備校」、「ハローワーク」となっている（図14）。

【図14】以下の機関・人物・媒体が発する企業の情報・評判について、どのように感じているか



また、信頼度の高さを学生の属性別に見た。

内定獲得状況別では、「内定なし」の学生は、「内定あり」の学生よりも各機関・人・媒体が発する情報に対する信頼度が低い傾向がある。色々な情報を収集したにもかかわらず、まだ内定を獲得できていないということに不満に感じているのかもしれない。また、彼らは「就活関連ブログ・掲示板」や「FacebookやTwitterなどのSNS」に対する信頼度が「内定あり」の学生よりも高く、インターネット上に溢れる情報に振り回されている可能性もありそうだ（表14）。

【表14】信頼している情報源：属性別

		個別企業の説明会・セミナー	企業のホームページ	大学の友人・先輩	就活ナビサイト	OB・OG訪問先の社会人	リクルーター・人事担当者	家族・親族	複数企業が合同で行なう説明会・セミナー	学校・キャリアセンターが主催するガイダンス・セミナー	担当教官や学校／キャリアセンター職員	インターンシップ	大学外の就活生	新聞・テレビ・ラジオ	就活関連書籍・雑誌	就活関連ブログ・掲示板	新卒人材紹介サービス	ハローワーク	就活支援専門塾・予備校	FacebookやTwitter等のSNS
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=710)		82.7	77.6	73.2	71.3	71.1	65.2	64.2	63.2	62.0	61.7	60.8	54.8	54.1	53.8	46.3	43.9	43.7	36.2	28.2
男女別	男性 (n=296)	77.7	71.6	73.0	68.6	68.2	66.2	62.8	60.8	55.7	57.4	59.5	56.4	48.6	51.0	44.6	41.9	37.5	34.1	29.4
	女性 (n=414)	86.2	81.9	73.4	73.2	73.2	64.5	65.2	65.0	66.4	64.7	61.8	53.6	58.0	55.8	47.6	45.4	48.1	37.7	27.3
文理別	文系 (n=512)	84.2	78.9	74.0	72.1	73.6	65.2	66.4	64.1	62.3	62.1	61.1	56.4	57.2	55.3	45.9	44.5	43.8	35.7	29.5
	理系 (n=198)	78.8	74.2	71.2	69.2	64.6	65.2	58.6	61.1	61.1	60.6	60.1	50.5	46.0	50.0	47.5	42.4	43.4	37.4	24.7
内定獲得状況別	内定なし (n=45)	66.7	71.1	53.3	62.2	60.0	55.6	55.6	55.6	64.4	57.8	51.1	46.7	44.4	48.9	60.0	40.0	51.1	35.6	42.2
	内定あり (n=665)	83.8	78.0	74.6	71.9	71.9	65.9	64.8	63.8	61.8	62.0	61.5	55.3	54.7	54.1	45.4	44.2	43.2	36.2	27.2
	1社 (n=245)	80.8	78.0	72.7	68.2	67.3	62.9	59.2	63.3	62.9	62.0	58.8	52.7	47.3	50.6	44.9	43.3	42.0	34.3	24.9
	2社 (n=187)	84.0	71.7	73.3	73.3	69.5	63.1	63.1	61.0	60.4	60.4	56.1	51.3	55.6	50.3	41.2	38.5	37.4	30.5	23.5
	3社以上 (n=233)	86.7	83.3	77.7	74.7	78.5	71.2	72.1	66.5	61.8	63.1	68.7	61.4	61.8	60.9	49.4	49.8	48.9	42.9	32.6
従業員規模別	299人以下 (n=181)	85.1	79.6	78.5	74.0	73.5	65.2	64.6	61.9	62.4	60.8	60.2	55.2	54.7	54.7	43.6	52.5	53.0	43.1	25.4
	300～999人 (n=152)	82.2	75.0	69.1	73.0	68.4	66.4	64.5	61.8	59.2	61.8	59.9	58.6	52.6	52.0	44.1	39.5	40.1	30.9	25.0
	1,000～2,999人 (n=115)	80.9	75.7	71.3	68.7	73.0	59.1	62.6	69.6	65.2	61.7	64.3	50.4	55.7	48.7	47.0	40.0	41.7	29.6	28.7
	3,000人以上 (n=176)	87.5	81.8	78.4	71.6	76.7	68.8	67.6	62.5	61.4	61.9	63.6	58.5	57.4	58.0	46.6	40.3	33.5	35.8	27.8

社会人になることをどう感じているか

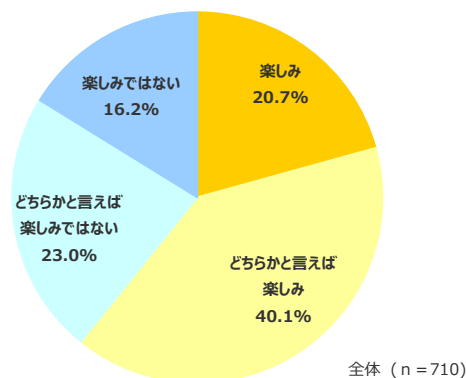
学生に、社会人になることをどう感じているか聞いた。「楽しみ」20.7%、「どちらかと言えば楽しみ」40.1%となり、60.8%が楽しみに感じているようだ（図15.1）。

文理別に見ると、「楽しみ」と感じている学生の割合は、文系18.0%、理系27.8%と理系の方が高い。また、「楽しみ派（「楽しみ」と「どちらかと言えば楽しみ」の合計、以下同）」の割合も高くなっている（図15.2）。

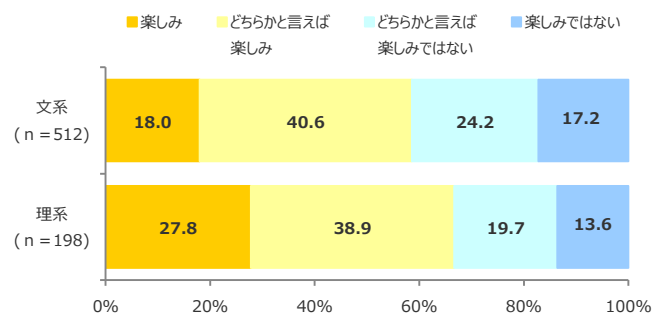
また、入社予定企業の従業員規模別に見ると、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生は、「楽しみ派」の割合が7割を超えていた（図15.3）。理系や「3,000人以上」の規模の企業に入社予定の学生は、「5 志望通りの業界・職種か」において、他の学生よりも志望通りの業界・職種の企業に入社予定の学生が多かったため、入社後の期待感もより膨らんでいるのかもしれない。

「10 入社予定企業に好印象を抱く人物はいるか」との関係を見ると、入社予定企業の「内定者」「採用担当者」「採用担当者以外の社員」の中に好印象を抱く人物が「いる」と回答した学生は、「いない」と回答した学生よりも、「楽しみ派」の割合が大幅に高い。一方、入社予定企業の「内定者」「採用担当者」「採用担当者以外の社員」の中に好印象を抱く人物が「いない」と回答した学生は、「楽しみではない」と回答した学生の割合が高くなっており、社会人生活への期待と未来の職場の人間関係は影響しているようだ（表15）。

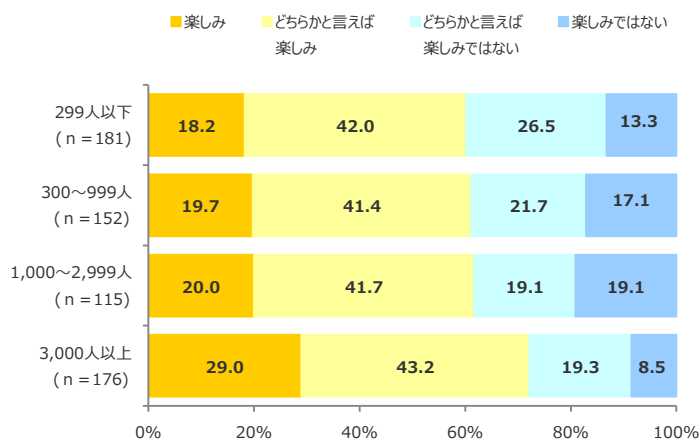
【図15.1】社会人になることをどう感じているか



【図15.2】社会人になることをどう感じているか
：文理別



【図15.3】社会人になることをどう感じているか
：入社予定企業の従業員規模別



【表15】社会人になることをどう感じているか
：好印象をもつ人物の有無別

		楽しみ	どちらか とも言え ば	どちらか ではな い	楽しみ ではな い	
		(%)	(%)	(%)	(%)	
全体 (n=710)		20.7	40.1	23.0	16.2	
好印象をもつ 人物の有無別	内定者	いる (n=481)	23.3	45.1	22.0	9.6
		いない (n=184)	15.8	31.5	24.5	28.3
	採用担当者	いる (n=514)	24.1	45.7	20.4	9.7
		いない (n=151)	11.3	26.5	30.5	31.8
	採用担当者以外の社員	いる (n=428)	27.6	45.1	18.0	9.3
		いない (n=237)	9.7	34.6	31.2	24.5

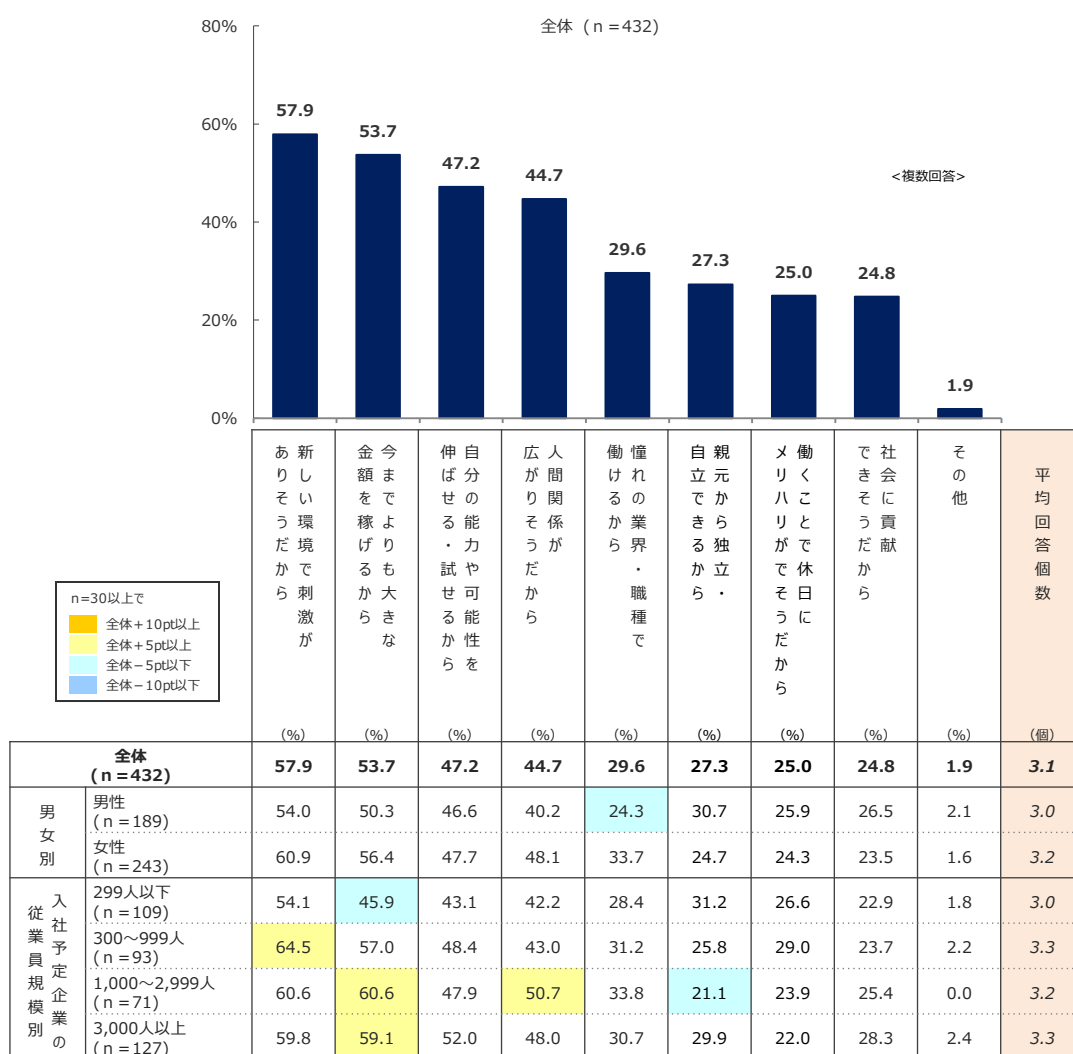
社会人になることを 「楽しみ」と感じる理由

「15 社会人になることをどう感じているか」において、「楽しみ」または「どちらかと言えば楽しみ」と回答した学生にその理由を聞いた。結果は、上位から「新しい環境で刺激がありそうだから」57.9%、「今までよりも大きな金額を稼げるから」53.7%、「自分の能力や可能性を伸ばせる・試せるから」47.2%、「人間関係が広がりそうだから」44.7%となっている。

男女別に見ると、女性は男性よりも平均回答個数が多く、社会人生活の様々なシーンに期待を膨らませている。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、「299人以下」の企業に入社予定の学生は、全体的に平均回答個数が他よりも少ない。特に、「今までよりも大きな金額を稼げるから」の回答割合が他よりも低いのが特徴である（図16）。

【図16】社会人になることを「楽しみ」と感じる理由：属性別



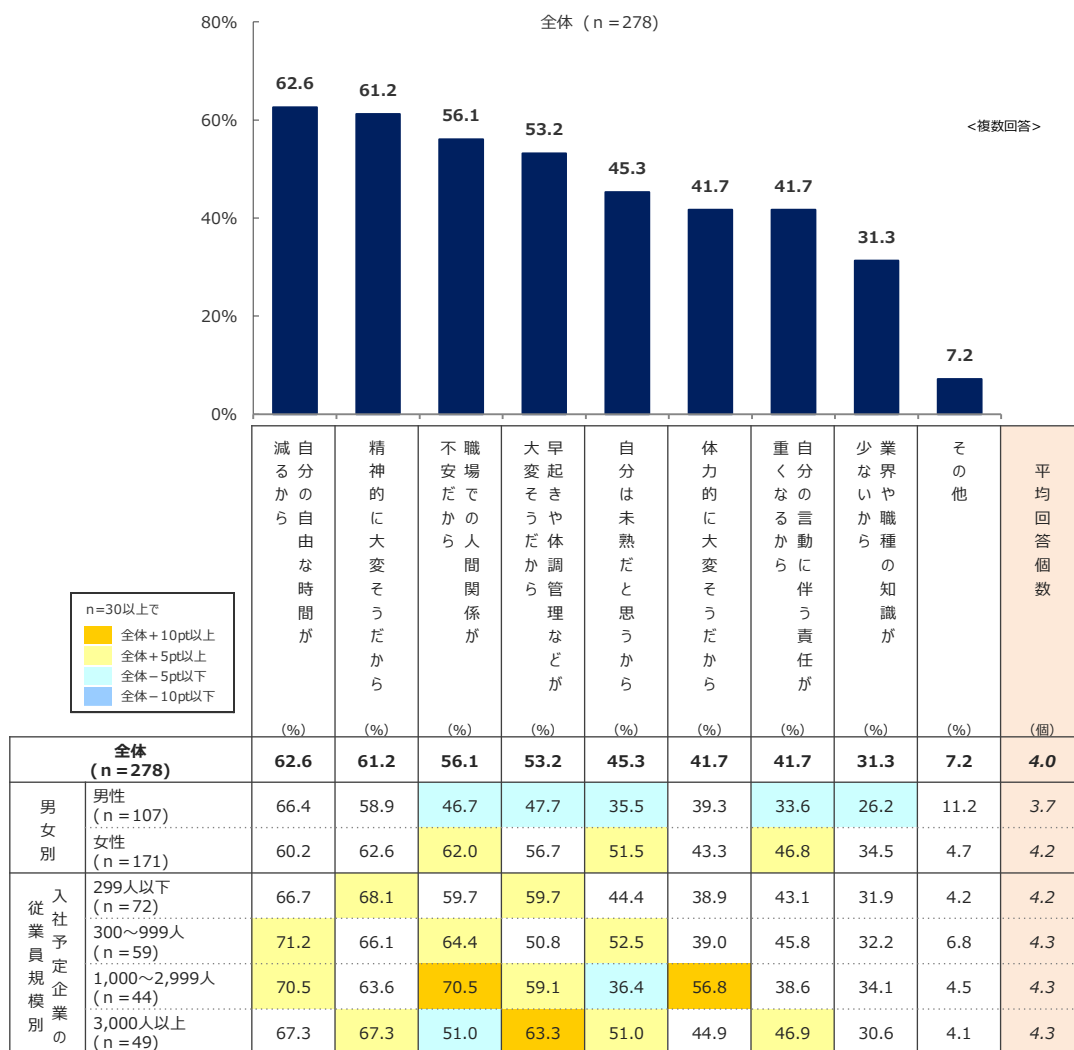
社会人になることを 「楽しみではない」と感じる理由

「15 社会人になることをどう感じているか」において、「楽しみではない」または「どちらかと言えば楽しみではない」と回答した学生にその理由を聞いた。結果は、上位から「自分の自由な時間が減るから」62.6%、「精神的に大変そうだから」61.2%、「職場での人間関係が不安だから」56.1%、「早起きや体調管理などが大変そうだから」53.2%だった。平均回答個数は4.0個となっている。

男女別に見ると、女性は男性よりも平均回答個数が0.5個多く、「職場での人間関係が不安だから」「自分は未熟だと思うから」「自分の言動に伴う責任が重くなるから」など、自分に自信がないことの不安が社会人生活の期待の低さにつながっているようだ。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、「1,000～2,999人以下」の企業に入社予定の学生は、「職場での人間関係が不安だから」「体力的に大変そうだから」が、他の規模の企業に入社予定の学生よりも大幅に高くなっていた（図17）。

【図17】社会人になることを「楽しみではない」と感じる理由：属性別



社会人のイメージ

学生に、「仕事への姿勢」「プライベート」「ランチ」「電車での過ごし方」「貯金」について、社会人のイメージを聞いた。

「仕事への姿勢」に関しては、A「やりがいを持って、バリバリ仕事をしている」とB「ただ与えられた仕事をこなしている」では、同程度の割合になった。半面、「1,000～2,999人以上」の企業に入社予定の学生は、Bの回答割合が他の学生よりも高い（図18.1）。

「プライベート」に関しては、A「アフター5が充実」よりも、B「毎日残業で家と会社の往復のみ」が圧倒的に多い。また、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生では、他の学生よりもAの回答割合が高くなっている（図18.2）。

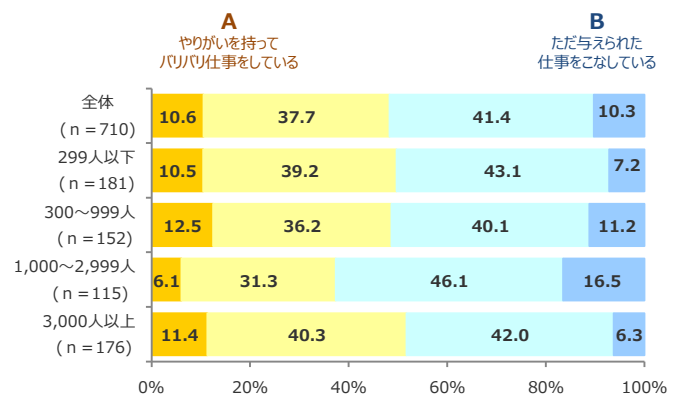
「ランチ」に関しては、A「ランチは外食」とB「節約のためランチは外食しない」も同程度の割合だった（図18.3）。

「電車での過ごし方」に関しては、A「電車では仕事や勉強」とB「電車では眠ったり、スマホで暇つぶし」では、Bの方が圧倒的に高い。「1,000～2,999人以上」の企業に入社予定の学生では、他の学生よりも特にBの回答割合が高くなっている（図18.4）。

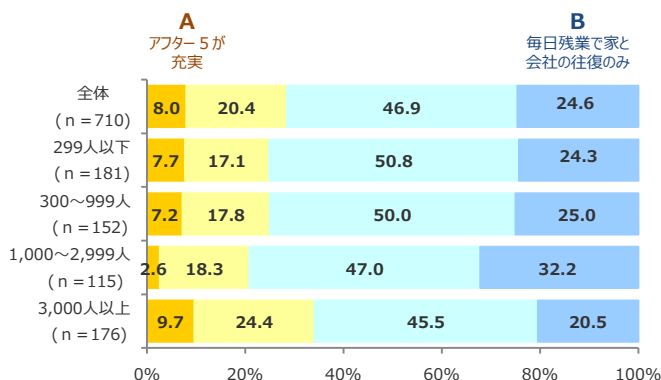
「貯金」に関しては、A「貯金がある」とB「貯金がない」では、Aの方が多数派となった。特に、「3,000人以上」の規模の企業に入社予定の学生では、よりその傾向が見られた（図18.5）。

■ Aに近い ■ どちらかと言えば Aに近い ■ どちらかと言えば Bに近い ■ Bに近い

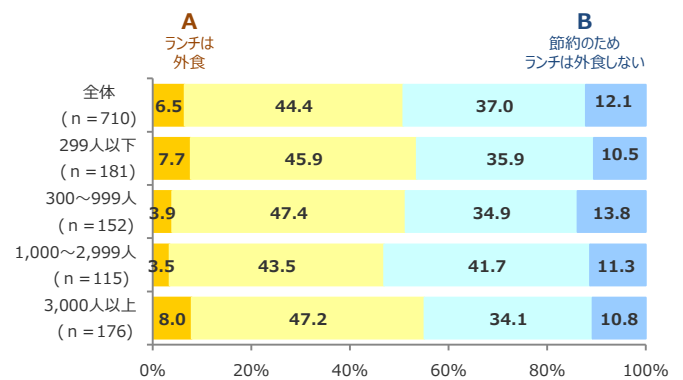
【図18.1】「仕事への姿勢」に関する社会人のイメージ
：入社予定企業の従業員規模別



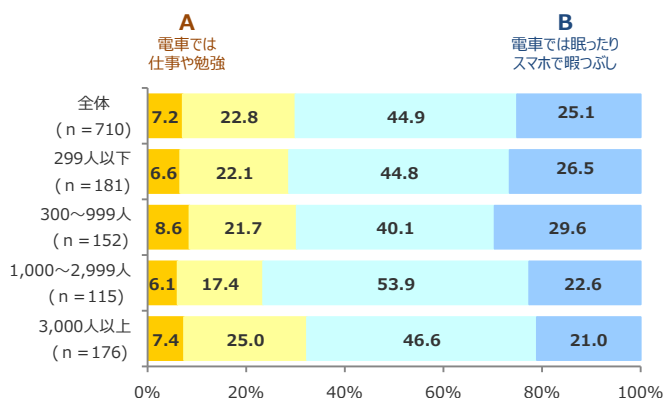
【図18.2】「プライベート」に関する社会人のイメージ
：入社予定企業の従業員規模別



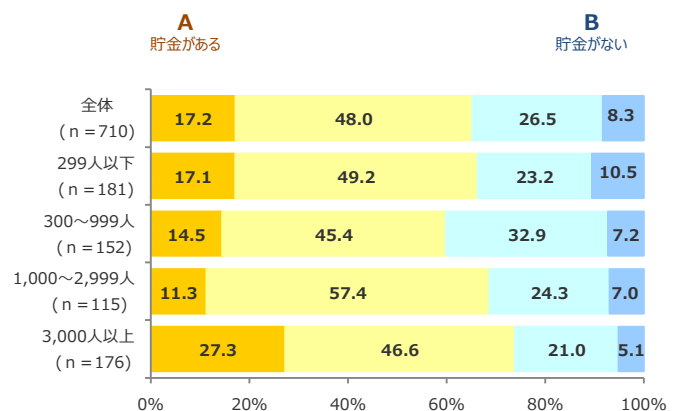
【図18.3】「ランチ」に関する社会人のイメージ
：入社予定企業の従業員規模別



【図18.4】「電車での過ごし方」に関する社会人のイメージ
：入社予定企業の従業員規模別



【図18.5】「貯金」に関する社会人のイメージ
：入社予定企業の従業員規模別



採用活動開始時期

- 3月解禁、6月面接という日程はやめてもらいたい。理由は、幅広い分野で企業研究をする時間が足りなかったためです。また、エントリーシート、面接、企業研究と同時進行が多く、時間調整が非常に難しかったです。
- 就職活動の解禁を守っていない企業ばかりで、海外留学していた学生が不利になる状況は改善が必要だと考える。本来ならば同じ土俵に立って勝負をしたかったが、留学を決断したためにその土俵にすら乗れなかったことには、違和感を覚える（留学していたため参加必須の説明会に参加できなかった）。
- 教職を取っていたので、多くの企業で6月に面接解禁というのは教育実習と時期が重なって辛かった。しかし、6月以前に解禁している企業も多く、情報に惑わされたので、もう少しはっきりしてほしい。
- 開始時期を守らない企業が多すぎる気がします。それなら、開始時期の設定は必要ないのではと思いました。

情報開示

- 自社の良いところだけでなく、悪いところ、普段の会社環境についてははっきりと見せてほしい。どのサイトも自社の良いところしか載せていなくて、逆に不信感が煽られる。
- 就活生は給料のことが一番聞きづらいが、一番気になっている部分であるため、企業側は福利厚生、または手取り初任給等、うやむやにせずはっきり伝えてほしい。
- 人事の方だけでなく、実際の現場の社員の方と交流する機会がもっとあればよい。
- 就活生向けの企業説明ではなく、仕事の実態や企業の抱える問題についても理解を深める場を設けていただきたい。

選考フロー

- 選考フローを明確に記してほしい。何回面接があるのか、先行きが不安になる。
- 面接や筆記試験の日程などは、あらかじめ知らせてほしい。直前になってから「1週間後に来てください」と言われ、せっかくの実験の準備が無駄になり、お金も時間ももったいなかった。
- 説明会に行きたかったが、いつも埋まっていたり、予定が合わなかった企業がいくつかあったので、もっと説明会の回数を増やしてほしいと思った。
- 拘束時間を守ってほしい。次に別の企業に行く可能性があるので、説明会の延長などはすごく困る。

選考方法

- 面談と称して面接を行ったり、秘密裏に選考を進めていくのをやめてほしい。
- 履歴書を書き間違えて時間を取ることが多かったのが、失礼だとは思いますが修正液可だと嬉しい。
- 筆記試験等のテストの成績だけでなく、一度でいいから面接をしてほしいと思った。
- 私が就活をする中で、選考の過程で先輩社員の方々と接することのできる企業がいくつかあった。その過程で自己分析も深まったし、入社してから頑張る自分の姿をイメージしやすくて良かった。そういった選考を取り入れる企業が増えればいいと思う。

学歴フィルター

- 学歴フィルターをなくして、公平に選考して欲しい。説明会は定員が少なく、参加したくても出来ないことが多かったのが、枠を広げ、希望者は選考を受けられるようにしてほしい。
- 学歴で選ぶなら、そう書いてほしい。コソコソしても、結局掲示板などに書かれているのだから無意味だと思う。

選考結果通知

- 不採用について、1カ月以上してから連絡する企業もあった。もっと早く連絡がほしかった。
- サイレントは絶対にやめてほしい。就活生を馬鹿にしている態度だと思う。就活生も多忙なスケジュールの中、時間とお金を使ってその企業の選考に行っていることを考えるべき。
- エントリーシートや面接で不合格ならば連絡なし、というのはどうかと思う。失礼極まりないと思う。コンタクトを取ったのだから、きちんと結果を返すのが筋。連絡がなかった企業のイメージは、消費者としてもガタ落ちだった。

オワハラ

- オワハラをやめてほしい。内々定をいただいた企業から、他の選考を受けられないよう拘束された。その企業のことをいい会社だと思っていたのに、幻滅したし信用できなくなり、正直に「他も受けない」と言えなくなった。結果的に辞退した。学生を逃したくないのはわかるが、それで会社の評判も悪くなるかもしれないし、学生側も動きづらくなって、お互いにメリットがないことだと思う。
- なかなか難しいとは思うけれど、内定を出しても、就職活動を応援してくれる企業が増えればいいと思う。

インターンシップ

- インターンシップと内定は関係ないと思うけれど、やはり実際は差があるように思いました。就活を経験して本当に残念に感じたことでした。
- 自分が内定をいただいた企業は、就職活動時期に5回以上のインターンシップを企画していた。他の企業も、インターンシップを行なうなら少なくともその程度の回数は行なって欲しい。
- 一括採用というシステムをやめて、インターンシップ（長期）からの登用のシステムにしてほしい。
- 通年採用方式をどんどん取り入れてほしいなと思います。学歴や面接だけで人物を判断するのも大変だと思うので、インターンシップを取り入れた選考などを積極的に行なったらいいと思います。大学が就活予備校みたいになっていて、在学中から疑問に感じていました。

採用担当者の態度

- 明らかに学生を見下すのはやめてほしい。裏表があるのが滲み出ているのが怖かった。
- 金融業界のグループディスカッションを受けた際、面接官が目をつぶっていました。やる気がないなあと感じ、志望度が下がりました。いくら採用が続いて疲れがたまっているからと言って、学生は人生をかけて真剣に取り組んでいるのですから、企業側も真摯な態度で臨んでほしかったです。
- 4月から入社する企業は、説明会の時から内定式の時まで、いつも学生を見ると仕事する手を止め、皆さんわざわざ立って挨拶してくださったので、他の企業もそのようになっていくといいなと感じました。

交通費

- 支給される交通費が実際の運賃より少ない場合があったので、全額支給してほしい。
- 交通費を少しでもいいので、出していただきたい。また、何回も遠出することになるので、面接地をいくつか設定してほしい。
- 地方に面接に行かなければならない場合、交通費を出してほしい。

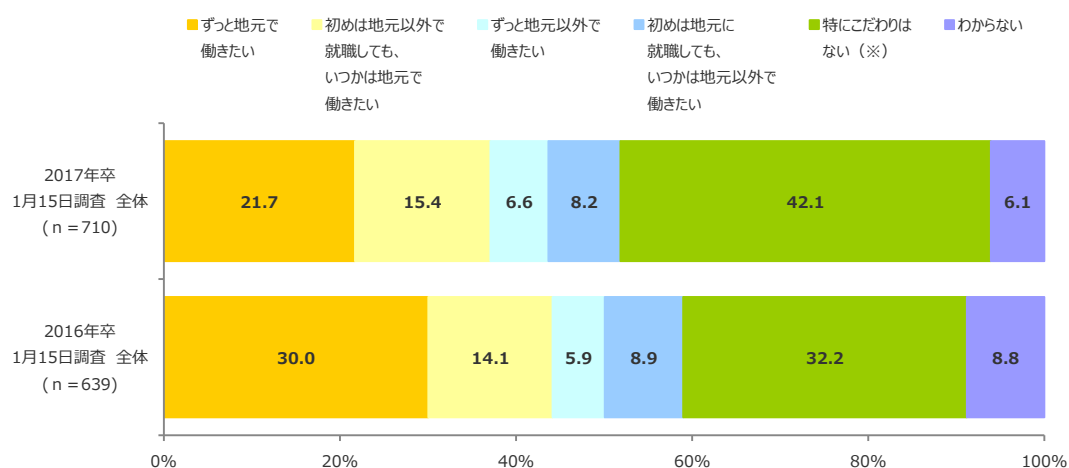
学生の地元志向

学生に、働く上で地元で働きたいという地元志向があるかを聞いた。「ずっと地元で働きたい」21.7%、「初めは地元以外で就職しても、いつかは地元で働きたい」15.4%となり、地元志向（「ずっと地元で働きたい」と「初めは地元以外で就職しても、いつかは地元で働きたい」の合計、以下同）がある学生は合わせて37.1%となっている。「特にこだわりのない（※）」と回答した学生は42.1%だった。前年調査と比較すると、地元志向は弱まっているようだ（図20.1）。

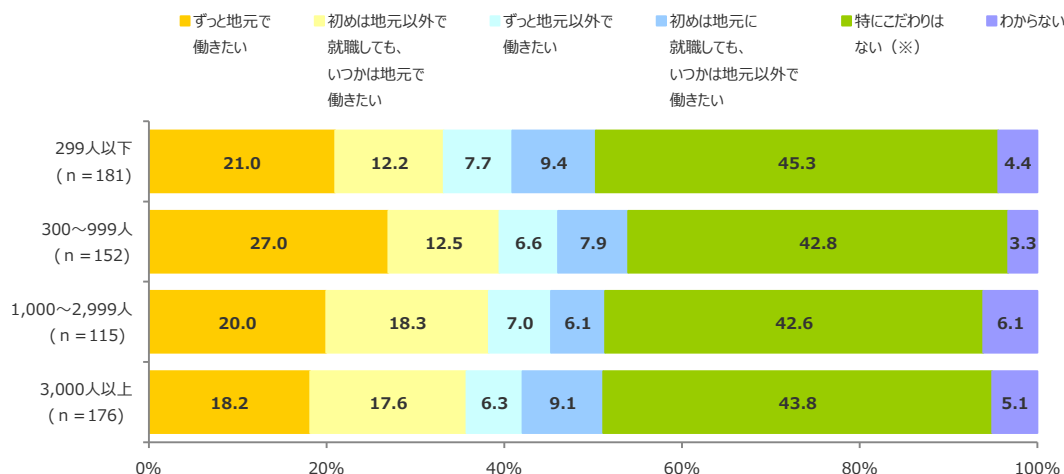
入社予定企業の従業員規模別に見ると、「300～999人」または「1,000～2,999人」の規模の企業に入社予定の学生は、他の学生に比べて地元志向が強い傾向があった（図20.2）。

※前年調査は「地元で働くことにこだわりのない」と聴取。

【図20.1】地元で働きたいと思うか：前年調査との比較



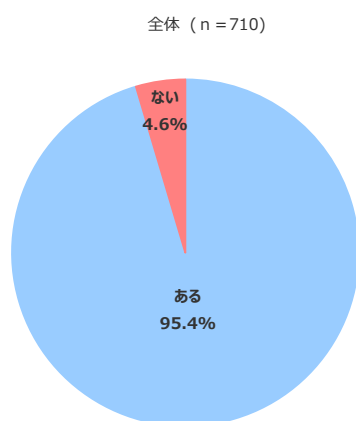
【図20.2】地元で働きたいと思うか：入社予定企業の従業員規模別



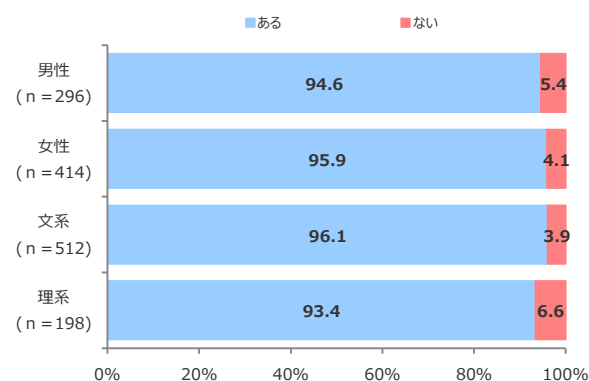
学生に、大学入学後にアルバイトをしたことがあるか聞いた。「ある」という学生が95.4%に上り、ほぼ全員が学生時代にアルバイトをしていたようだ（図21.1）。属性別に見ると、理系はアルバイト経験が「ある」と回答した学生の割合が、文系よりも若干低い（図21.2）。

また、アルバイトをしたことが「ある」と回答した学生に、その目的を聞いた。最も多かったのは「お小遣い（自分の自由になるお金）を得るため」で80.2%に上った。続いて、「社会経験・人生勉強をするため」51.7%、「学費・生活費を稼ぐため」38.4%となっている。また、女性の方が、男性よりも平均回答個数が多くなっており、より多くの目的を持ってアルバイトをしていたようだ（表21）。

【図21.1】アルバイト経験の有無



【図21.2】アルバイト経験の有無：属性別



【表21】アルバイトの目的：属性別

<複数回答>

		お小遣い（自分の自由になるお金）を得るため	社会経験・人生勉強をするため	学費・生活費を稼ぐため	自分の興味・趣味を深めるため	就職活動で役立つスキルやPRの題材にするため	暇つぶし	友人・恋人づくり	その他	平均回答個数
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(個)
全体 (n = 677)		80.2	51.7	38.4	20.5	17.1	12.0	4.9	1.9	2.3
男女別	男性 (n = 280)	73.6	41.8	39.3	21.1	16.8	12.9	6.1	3.6	2.2
	女性 (n = 397)	84.9	58.7	37.8	20.2	17.4	11.3	4.0	0.8	2.4
文理別	文系 (n = 492)	81.9	51.0	38.2	21.5	16.9	12.8	5.1	1.8	2.3
	理系 (n = 185)	75.7	53.5	38.9	17.8	17.8	9.7	4.3	2.2	2.2

n=30以上で
 全体+10pt以上
 全体+5pt以上
 全体-5pt以下
 全体-10pt以下